一　日中外交関係一般

1

昭和9年1月16日　在南京日高（信六郎）総領事より広田（弘毅）外務大臣宛（電報）

福建独立問題への日本側協力に対する謝意および張学良処遇問題などに関し唐有壬外交部次長内話について

南　京　1月16日後発
本　省　1月16日後着

第二八號

數日來福建事變其ノ他內政問題ニ付協議ノ爲上海滯在中ナリシ唐有壬十五日歸寧セルヲ以テ往訪シ時局談ヲ試ミタルカ其ノ談話要領左ノ通リ御參考迄（出所極秘）

一、蔣介石ハ十六日迄ニ福州ヲ片附クヘシト言ヒ居タルカ右實現シ且平穩裡ニ福州ノ占領カ行ハレタルハ御同慶ノ至リニシテ右ハ守屋總領事、酒井大佐等日本側ノ盡力ニ負フ處多ク感謝ニ堪エス然シ前途ニハ未タ困難アリ蔡廷鍇ハ十九路軍ト共ニ最後迄踏止マルヘキモ結局同軍ハ分裂ヲ免レサルヘク廣東側ハ目下同軍ノ買（收）ニ努メ居ルヲ以テ大部分ハ廣東ニ（戴戟カ廣東側ニ入リ舊部下ヲ買收スルコトトナルヘシ）一部ハ中央及共產軍ニ投スルコトトナルヘシ元來今回ノ事變ニ於テハ十九路軍カ共產軍ニ一杯喰ハサレタル形ナリ十九路軍ハ事ヲ擧クレハ十日以內ニ撫州ヲ占領シ中央軍ヲ牽制スヘシトノ共產軍ノ言ヲ信シ浙江方面ニ進出シタル處豫期ニ反シ江西方面ハ一溜モ無ク且ツ中央軍ヨリ手痛ク反擊セラレ退却ノ已ム無キニ至レルモノナリ

其ノ結果共產軍ハ從前ノ地盤タル江西ヨリ福建南部ニ其ノ勢力ヲ伸張シタルコトトナリ著シク海ニ接近シ糧食、武器等ノ補給ヲ爲シ其ノ地位ヲ改善シタルカ今後ハ地理上ヨリ云フモ廣東ニ對シ從來ヨリモ更ニ大ナル脅威トナルヘシ

二、陳儀ノ福建省主席任命ニ付最初主席候補者ハ楊樹莊ト陳儀ナリシカ楊ノ死去ニ依リ自然陳トナリタル次第ナリ陳

ノ任命ハ日本側トノ關係ヲ顧念シタルニ出ツルモノニシテ時局收拾上好影響ヲ及ホスヘキモ汪一派トシテハ陳ノ如ク日本側ニモ良キシツカリ者ヲ中央ヨリ失フコトニ付大ニ不自由ヲ感シ居レリ(軍政部長何應欽ハ北ニアリ常務次長曹浩森ハ大人物ニアラス從テ汪精衞ハ陳ニ代ルヘキモノトシテ張群ハ最適當ナルヘシトノ意見ナルカ如シ)

追テ十五日本官ノ招宴席上陳ハ曹カ漢口ヨリ歸寧スルヲ待チ出發スト語リ居タリ

三、(3)福建問題一段落ヲ告ケタルニ依リ胡漢民ノ態度モ亦變化セサルヲ得サル可シ胡モ最初ハ福建問題ヲ利用シ南京嚇カシヲ遣リ(廣西ノ李宗仁ヲ誘ヒタルモ李ハ來香セス)一時蔣、汪、胡、孫、伍朝樞等七人ニテ政治ヲ行フ制度ヲ考ヘ居タル處最近ハ蔣、汪、胡三人ニテ中央政府ノ全權ヲ握ル案ヲ唱ヘ出シタル模樣ナリ一方陳濟棠等廣東側トシテハ胡ヲ南京ニ押附クルコト寧ロ其ノ希望スル所ナルノミナラス上海方面ニテモ差當リノ彌縫策トシテ之ヲ贊成スル者アリテ今度ノ四中全會ノ議ニ上ルヤモ知レス但シ實現ノ可能性乏キモノト觀察セラル

四、四中全會ノ議題ハ未タ決定セス中央トシテハ成ル可ク受身トナリ各方面ヲ説得シ切拔クル積リナルモ會議カ紛糾ヲ來サハ或ハ蔣モ自身南京ニ來リ汪ト手ヲ携ヘテ積極的ニ組織ノ改革等ニ依リ反對派ノ排擊ニ乘出スコトトナルヤモ知レス先般孫科カ南下セルハ全然同人一個ノ考ニ出テタルモノニシテ一時ハ餘程西南派ニ近ツケルモ最近ハ左程ニ非ス今次ノ會議ニテハ調停者ノ地位ニ立ツ積リト見ラルル處前記同人南下ノ際ノ態度ハ節操ナキモノトシテ著シク南京方面ノ感觸ヲ害シタリ

五、(4)張學良今回ノ歸國ニ關シ學良自身ハ蔣ニ呼返サレタルカ如ク吹聽シ居ルモ實際ハ福建ノ紛擾ニ乘シ李石曾其ノ他カ東北系ノ連中ヲ動カシタル結果萬福麟カ蔣介石ニ面會シ學良歸國ノ決意ヲ示シ豫テ用意セル呼戻ノ私電ニ署名セシメタリト云フカ眞相ナリ然ルニ福建問題モ鎭マリタル今日學良トシテハ餘程溫順ナシクナリ東北系連中モ同人ノ北方歸還ハ最早諦メ居ル模樣ナリ尙學良カ日本側ノ了解取付ニ努力シ居ルコトハ同人ノ新聞ニ對スル發表振ニ依ルモ窺ハルル所ナルカ一方同人ハ汪精衞ノ了解取付ニ付テモ力ヲ盡シ居レリ何處ニ落着クヤハ近ク學良カ蔣

ニ面會ノ上極マル所ナルヘキモ同人ニ軍權ヲ握ラシムルコトニ付テハ日本側ノミナラス支那側ニモ反對アリ結局個人的衞兵以外ノ兵力ヲ有スルコトハ不可能ナルヘシ(本項ハ多少既電ト重複ノ嫌アルモ申添フ)

支、北平、天津、青島、漢口、福州、厦門ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

2　昭和9年1月18日　在南京日高総領事より広田外務大臣宛(電報)

満州国帝制実施は黄郛駐平政務整理委員会委員長の政治的立場を困難にするおそれありと唐有壬懸念表明について

南京　1月18日後発
本省　1月19日前着

第三七號

滿洲國帝政施行ニ關スル當方面ノ新聞記事等ハ往電第二二號所報ノ通ナルカ本件ニ關シ十七日本官唐有壬ト會談ノ際夫ト無ク本問題ニ言及シタル處唐ハ當方面ニ於ケル識者ハ執政カ帝位ニ卽クモ滿洲國ノ實質ヲ變シ又ハ日本ノ政策ヲ變化セシムルモノトハ思ヒ居ラス實ハ其ノ見當ニテ新聞ノ論調等ヲ指導シ居ル積リナルカ本件カ諸方面ニ刺戟ヲ與ヘ居ル事ハ事實ナリ殊ニ黄郛ハ曩ニ各方面ニ對シ日本側ノ誠意ヲ説明スルニ當リ日本ハ滿洲問題等ニ關シ今日以上事態ヲ惡化セシムル事無カル可キ旨ヲ述ヘ居タル關係上是等方面ニ對シ困難ナル地位ニ立ツノミナラス過去ニ於ケル溥儀執政トノ關係モ有リ(北平發閣下宛電報第二一號御參照)今後窮地ニ陷ル事無キヤヲ惧レ頗ル消極的態度ヲ持シ最近其ノ趣旨ノ電報ヲ寄セ來レリト語レリ(出所極秘)

支、北平、天津、滿ヘ轉電セリ

3　昭和9年1月26日　在天津栗原(正)総領事より広田外務大臣宛(電報)

張学良処遇問題をめぐる蔣介石態度および安福派策動に関し周龍光前天津市長内話について

天津　1月26日後発
本省　1月26日後着

第二一號

往電第一九號ニ關シ

二十五日周龍光ハ學良、東北系要人、安福派ノ關係ニ付在支公使發閣下宛電報第四三號ト略同樣ノ事實ニ加ヘ左ノ通リ田中ニ内話セル趣ナリ

㈠當初學良歸國ニ關シ蔣介石ハ廬山ニ於テ萬福麟ノ熱望ニ依リ止ムナク學良宛歸國差支ナキ旨ノ電文ヲ起草シ萬ヲシテ殊更ニ北平ヨリ發電セシメシカ右發電ハ學良カ既ニ伊國ヲ出發セル後ノコトニテ蔣トシテモ學良歸國ニ對シ先ツ快カラス思フニ至リタルモノノ如ク又學良出迎ノ爲南方ニ赴ケル東北系要人ハ學良ヲ香港ニ落着カシメ以テ其ノ後ノ政治的策謀ニ自由ナラシメントセシカ學良ハ只管蔣介石ニ空頼ミシ居リテ彼等ノ進言ニ耳ヲ傾ケス其ノ儘上海ニ到着シ明ラカニ蔣及南京側要人等ノ態度意外ニ冷淡ナルヲ感知セルモ尚蔣ニ會見ノ上其ノ了解ヲ得ルコトヲ期待シ東北系要人ノ策動ニモ殆ト無關心ノ態度ニテ遂ニ南京ニ赴キ始メテ蔣ニ會見セシモノニテ蔣ト學良トノ此ノ間ノ關係ヲ忌憚ナク言ハハ蔣ハ今日ニ於テハ學良ヲ邪魔者扱ニシ居ルカ如ク遂ニハ學良ハ最後ノ再度外遊サヘ(曩ニ學良ニ隨行セル者ノ大部分ハ今尚伊國ニ滞在中ノ由)不可能トナリ南京邊リニ体好キ監禁ノ身トナル

(ニアラス)ヤトサヘ疑慮セラルル次第ナリ

㈡東北系要人ノ上海ニ於ケル學良、安福派ノ提携運動ハ右要人等カ學良ノ意向ニハ無關係ノ間ニ安福派ノ對日的立場比較的良好ナルヲ利用シ段祺瑞ハ兎ニ角トシ少クトモ王揖唐位ヲ北支ノ黄郛ノ地位ニ置キ學良ハ東北軍ヲ擁シテ之ト合作シ以テ最後ノ學良ノ地盤ヲ維持シ東北軍ノ命脈ヲ保タシメントスルニ過キサルカ斯ル運動ノ成否ハ素ヨリ疑問ナルモ東北系ノ右策謀ハ今後學良ノ意圖スラ頓着ナク寧ロ學良ノ境遇失意ニ陥レル程益々具体化スルモノニ非スヤト思料セラル

支、北平、南京、濟南、青島、滿ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

4 昭和9年2月13日 在南京須磨(弥吉郎)総領事より広田外務大臣宛(電報)

共産勢力防遏のための協力および具体的懸案解決による日中関係調整に関し汪兆銘行政院長内話について

南京 2月13日前発
本省 2月13日後着

第一一一號(極秘)

六[1]日汪院長ト會食ノ際先方ヨリ貴官ハ過般福州ヲ經テ歸朝セル旨聞及ヒ居ルニ依リ最近ノ機會ニ於テ東京方面ノ御話ヲ承リ度シト申シ居タルニ付本十二日往訪種々會談シタルカ其ノ内注意スヘキ點左ノ通

一、汪ヨリ東京方面ニ於ケル對支空氣ハ何等變化ヲ見タル次第ナリヤト切出シタルニ依リ本官ヨリ今般歸朝シ關係各方面ト意見ヲ交換スルノ機會ヲ得タルカ外務、陸、海軍等ノ日支問題ニ關スル意見ハ全ク一致シ居リ殊ニ外務省ニ於テハ大臣ノ議會演説中ニモアル如ク日支關係ハ好轉ヲ傳ヘラレ居ルニ拘ラス之ヲ證明スヘキ事實ヲ發見スルヲ得サルヲ遺憾トシ居リ貴院長ノ如キ要路ノ責任者ヨリ確乎タル誠意ノ披瀝アルヲ期待シ居ル旨力説シタル處汪ハ本日ハ廣東以來ノ舊友トシテ日支關係ニ付平生自分ノ抱懷スル意見ヲ忌憚無ク申述フヘシト前提シ日支問題ノ如何ナル解決モ日本ノ利益ヲ害セサルト共ニ支那ノ利益トモナルヘキコト必要ニシテ吾人ノ孫總理ヨリ受ケ居ル國民黨外交ノ基調モ茲ニ存スル次第ナリ然ルニ東三省ニ於ケル張家ノ政策之ニ倣ハス又當時ノ南京政府モ同樣此ノ趣旨ヲ沒却シ居タル爲自分等ハ廣東ニ於テ國民政府ヲ設立シ彼等ノ覺醒ニ努力スル處アリタルモ遂ニ目的ヲ果サス滿洲事件ノ發生ヲ見ルニ至レリ然シ同事件後モ依然日支共存カ東亞ニ於ケル根本義ナルコトハ不變ニシテ此ノ點ハ單ニ自分カ信シ居ルニ止マラス蔣介石モ亦然リト確信スルヲ得

二、[2]然ルニ滿洲問題ハ支那ニ取リテハ云ハハ身体要部ノ大傷トモ云フヘク今ノ處之ヲ醫スヘキ療法ヲ見出スニ苦ム狀態ナルカ實ハ自分ハ日支間ニハ滿洲問題ヨリ更ニ十倍モ重要ナル問題ノ横ハリ居ル事實ヲ見透シ居ルヲ以テ黨部其ノ他ニ氣兼ネシツツモ態ト滿洲問題ニ觸ルル事ヲ手控ヘ居リ鮮カラス苦境ニ立チ居ル次第ナリ

三、前述セル重要ナル問題トハ共匪問題ナリ共匪ハ實ハ第三國際ノ便衣隊ニ外ナラス假ニ内政問題トシテ共匪ヲ何トカ片付ケ得ルトシテモ之カ背景ヲ成ス蘇國ニ對シテハ支那ハ如何トモ手ノ出シ樣無シ然ルニ蘇國ハ日本カ日露戰爭ナル大犠牲ヲ拂ヒテ辛クモ其ノ南下ヲ防キ止メタル國

ナルヲ以テ之ニ對シテハ日支共同ニ考慮スヘキ點鮮カラスト思考セラル但シ斯ク言ヘハトテ自分等ハ日露間ノ戰ヲ望ム氣持ハ聊モ有セサルヲ以テ此ノ點ハ誤解サレサル樣願ヒ度シ唯之コソ貴官ノ所謂滿洲問題ヲモ「セツト、アサイド」シ得ヘキ最重要ノ問題ト云フヘク日支關係改善ノ上ヨリ熟慮ヲ加フヘキモノト思考ス

四、(3)以上ノ見地ヨリ自分等ハ兩國關係ヲ徐ニ正常化セシメ度シト考ヘ居リ既ニ御承知ノ通リ(一)ニハ目立タサル方法ヲ以テ手加減ヲ加ヘ(二)關稅引下ニ付テモ孔祥熙ヲシテ深甚ナル考慮ヲ加ヘシメ又(三)最近英支間ニ無線聯絡完成セルニ拘ラス未タ日支間ニ無之ハ極メテ遺憾ナルヲ以テ先週ノ行政院會議ニ自分ヨリ提案シ結局滿場一致ヲ以テ日支間無線聯絡開始準備方ヲ決議セラレ(但シ右決議ハ今ノ處嚴秘ニ附シ居ル由)唯右開始ノ方法ニ關スル細目ニ付テハ尙引續キ協議ヲ要スル狀態ニアリ且ツ(四)日支飛行聯絡ニ付テモ其ノ內交通部長ヲシテ實現方考慮セシムル手筈トナリ居ル等日本ノ利益ヲ考フルト同時ニ支那側ノ面子ヲ立ツル方法ニ依リ誠意ヲ示シ度キ心組ナルカ此ノ氣分ヲ助長スルニハ一ニ外交ノ手腕ト方法トニ俟ツノ外無シ

五、支那カ國際聯盟其ノ他外國トノ間ニ右趣旨ト兩立セサル特殊關係ヲ着ケ居ルカ如キ風聞アリ殊ニ米支間ニハ例ヘハ航空ニ關スル密約アルカ如ク噂セラレ居ルモ米支間ニ何等軍事的關係無キコトハ確言シ得ル處ニシテ自分ハ支那ノ對外關係モ前述ノ日支關係調整ニ適合スル趣旨ニテ按配シ自然外國側トハ何等特殊關係ヲ生セシムル意思ナキ故ニ此ノ點ハ御安心アリタシ

六、實ノ處先般來張學良ヲ河北ニ送ラントスル話合モアリタルカ結局同人ヲ剿匪副司令ニ任シ南部ニ留メ置ク方針ニ出テタルカ之モ日支關係ヲ考慮シタルカ故ニ外ナラス(汪ノ立場モアリ本會談絕對極秘ニ願ヒ度シ)

支、北平、滿ヘ轉電セリ

5 昭和9年2月20日 在中国有吉(明)公使より広田外務大臣宛(電報)

日中両国間の政治的理解は困難であるが経済上の提携は可能との宋子文前財政部長見解について

付記 一月二十六日付、作成局課不明

「日支經濟提携ニ關スル件」

上海 2月20日後発
本省 2月20日後着

第※一〇五號

十八日日高ハ挨拶旁宋子文ヲ訪問シ離任ニ際シ支那各方面ノ忌憚無キ日本觀乃至希望ヲ聞キ歸朝後要路ノ參考ニ供シ度キ趣ヲ以テ宋意見ヲ質シタルニ對シ宋ハ「自分ハ不言實行多ク語ラサルモ日本ニ對シテハ從來同情ヲ表シ事變直前モ種々劃策シタルコト重光次官等モ御承知ノ通ナル處滿洲問題ノ現狀ニ於テハ支那ハ形式的抗議ヲ繰返スノミニテ正直ノ處兩國間ノ融和ハ到底望ミ得ヘカラス支那側トシテハ日本ニ對シ「コレクト」ナル態度ヲ採ルコトカ關ノ山ナリ日支事件ニハ支那側ノ認識不足乃至遺口ノ惡シカリシ點アリシハ之ヲ認メ居ルト共ニ日本側ニ於テモ漸次穩健ナル政策ニ出テ何等カ折合着ク時期ノ到來ヲ希望スルモ御世辭拔ニ言ヘハ當分其ノ望ナシ」ト述ヘタルカ日高ヨリ最近長江上流ノ旅行談ニ依リ兩國經濟關係ノ緊密ナルコトヲ指摘シ話ヲ引出シタルヲ切懸トシテ宋ハ自分ハ將來兩國ニ於テ經濟問題ノ研究ヲ行ヒ經濟上ノ提携ノ見當ヲ着ケ

(2)其ノ後實現ヲ計ルコトカ五年十年後ノ將來ニ於ケル日支親善ノ捷徑ナリト思考ス政治的ノ理解ハ仲々困難ニシテ一般人民ニハ到底望ムヘカラス兩國間ニ十人位ノ要人カ此ノ經濟上ノ基礎ノ上ニ腹ヲ定メテ手ヲ握レハ提携必スシモ不可能ナラサルヘシ尙自分ハ日本ノ工業發展及其ノ統制振ニハ大ニ感服シ居リ研究シ度ク思ヒ居レルカ何カ有益ナル資料アラハ入手シ度シト述ヘ右ニ對シ日高ヨリ私見トシテ日支經濟提携ニハ日本側ニ於テモ自己ノ經濟力及技術ニ自信ヲ有シ支那產業(ト)將來ノ競爭等ヲセス常ニ一歩ヲ先ンシテ分業的ニ提携シ行キ得ル自信ヲ有シ技術的援助ヲモ惜マサル意氣込ナリトテ山東ニ於ケル棉種改良ノ爲ノ日支紡績業者ノ協力ノ例ヲ擧ケタルニ宋ハ同感ノ意ヲ表シ自分ノ友人ニモ琺瑯鐵器工場等ニ日本ノ「フオジメン」ヲ入レ好成績ヲ擧ケ居レリト答ヘ居タル趣ナリ

南京、北平ヘ轉電セリ

(欄外記入)

宋子文ノ此談話ハ同人ノ背後ノ財界(評判悪シトノ報ハアルモ)及政界の意向(ママ)ト何等牽聯アリトモ認メラルルヲ以テ之ヲ

一片ノ外務辞令ト見做スハ如何カト思ハル

之ハ朝野ノ有力ナル支那関係者ニ傳ヘ反響ヲ見ルノ値打アリト認メラル

（付　記）

日※支經濟提携ニ關スル件（昭和九、二、二六、稿）

一、提携ノ必要

二、提携能否

三、提携具体策

四、外務省ノ執ルヘキ當面策

一、提携ノ必要

日支提携ハ政治上軍事上經濟上緊要ナルコト申ス迄モナキ次第ナルカ就中經濟上ヨリ見レハ本邦紡績等諸工業ノ維持存續並將來本邦產業ノ根幹ヲ形成ス可キ化学工業機械工業等振興ノ爲ニ不易安固ノ市場及原料給源（供ヤカ）ヲ確保シ置クノ要アルニ對シ（編注一）滿支兩國ハ之等市場及原料給源（供ヤカ）ノ兩方面ノ條件ヲ兼備シ居レルノミナラス特ニ至近至便ノ地理的關係アルヲ以テ我國トシテハ單ニ右經濟事情ヨリスルモ之等兩國トノ間ニ緊密不可離ノ提携關係ヲ確立スルノ要アリ幸ニシテ滿洲國ニ關シテハ此種提携ハ現ニ着々進行シ居レルモ支那國ニ關シテハ現在端的ニ云ハハ日支兩國必要品ノ最少限度ノ交易アルノミニシテ往昔ノ親善ナク況ヤ前述ノ如キ提携關係ハ存在セス所謂行詰ノ狀態ナリ

二、提携ノ能否

前述ノ日支關係ノ行詰ハ其ノ由來スル所ハ支那國權回復運動（實行方法ハ排日排日貨）及滿洲國ノ成立等ニ存スル次第ナルカ故ニ理屈ヨリ云ヘハ此等諸原因ヲ解消調整スルニ於テハ前述ノ兩國ノ提携ヲ策定シ得ル次第ナルモ國權回復トハ不平等條約ノ排除ヲ目的トナシ居リ右ニ對シ我方トシテハ支那ノ實情及邦人發展ノ爲ニハ輕々ニ之ヲ容認スルコト困難ナル事情アルノミナラス滿洲國成立ハ如何トモ爲シ難キヲ以テ右ノ原因解消調整論ハ實際上殆ト價値ナキ空論ナリト云フモ過言ニアラス此點ニ於テ宋子文カ日高總領事ニ對シ日支間ノ政治的提携ハ至難ナリト云ヘルハ（別紙有吉公使來電（編注二）參照）實ニ焦點ヲ衝ケルモノト云フヘシ

然ラハ日支提携ハ絶望ナリト云フニ必スシモ然ラス例ヘハ親日政權ノ確立、歐米派打倒、國民黨過激分子ノ排除、排日言論（主トシテ新聞）ノ禁遏其ノ他諸般ノ內政工作ヲ邦人ノ有力ナル支那關係者ヲ中心トシテ行フコトモ提携實現ノ一策ニシテ而カモ計畫ノ規模及右工作ニ當ル人物ノ如何ニ依リテハ或ハ豫期以上ノ效果ヲ擧ケ得ヘシ（但シ右ハ場合ニ依リテハ國際問題ヲ生シ爲ニ遂行上支障ヲ來シ又右工作失敗ノ場合ハ意外ノ損失ヲ招クノ危險アリ此點ニ於テ右方策ハ愼重考慮スルモノアリ最（尤カ）モ日常之等ノ方策目標ヲ考慮シテ進ムコトハ必要ナルヘシ）

乍去政治工作ハ工作自体カ相當困難ナルヲ免レス之ニ反シ事一度經濟問題トナレハ其ノ性質上比較的容易ニ話シヲ進メラルルノミナラス利害ノ一致スル所必ス提携ノ機會ヲ生スヘク又此種問題ヲ中心トスル日支合作ハ外國ノ干與ヲ招カサル一方政府當局ノ態度如何ニヨリテハ反政府政客ノ物議ヲモ釀スコトナカルヘク更ニ漸ヲ逐ヒテ日支合作事業ノ增加スルニ於テハ日支人經濟關係ハ彼我錯雜結合スルヲ以テ容易ニ相互乖離スルコトナカルヘク從テ茲ニ日支關係ハ當然新事態ニ入リ所謂日支提携ハ必然的ニ又自然的ニ造成セラルヘキ等經濟問題ヲ中心トセハ提携ニ入ルニ易ク又强固ナル提携ノ成立ヲ見ルヘシ此點ニ於テ宋子文ノ經濟提携案ハ頗ル事宜ニ適セルモノト認メラル

要スルニ日支提携ハ決シテ不可能ニアラス又提携方法ナキ次第ニアラス

三、提携ノ具体案

提携實現ノ爲ノ政治的工作ハ茲ニ述ヘサルモ前記經濟的工作ノ具体策トシテハ左ノ四案ヲ以テ適當ナリト考ヘラル

イ、北支及中支等ニ於ケル棉花ノ裁（栽カ）培事業援助

客年支那棉業統制計畫發表サレタル當時右棉業統制委員會ノ關係者タル陳光甫ノ計畫案中棉花ノ裁（栽カ）培奬勵ノ一項アリ右ハ我邦トシテハ頗ル歡迎スヘキ次第ナルニ依リ何等措置ヲ講セムトセル處右棉業委員會ハ米國借款棉ノ處理機關トナレルニ付暫ク措置ヲ控ヘタルモ其ノ後陳光甫ハ船津ニ對シ棉業改善ニ援助方申出居レルヲ以テ本件ハ棉花裁（栽カ）培事業ヲ中心トシテ支那ニ協力スルコトト致度シ大局論トシテ棉花裁（栽カ）培事業程日支ノ共存共栄ヲ將（招カ）來スルモノナカルヘシ（往年棉花裁（栽カ）培ニ關

シテハ軍及三菱等ニ於テ便宜供與又ハ實際事業ニ當タルコトアリ（ママ）

ロ、日清汽船ト招商局トノ提携又ハ合同

昭和三四年排日貨以來日清汽船ハ比年營業困難ニ陷リ何時カハ整理問題ヲ生スヘシ一方招商局ハ國民政府ノ管理ニ移リ居レルモ政爭ノ場合ハ反政府側等ノ徴發ニ具ヘサルヘカラサル一方同局ハ英國等ヨリノ借款ノ爲財政狀態惡化シ居リ而シテ此兩者ハ共ニ英商太古及怡和ナル有力ナル競爭者ヲ有シ居レリ仍テ此日清及招商局(三北ヲ加フルモ可ナリ)ヲ提携又ハ合同セシメ鞏固ナル汽船會社トナシ之ニ附隨スル各般ノ事業ヲ經營セシメハ兩者ヲ蘇生セシムルノミナラス支那貿易ノ暢達ニ資シ併セテ太古恰（怡カ）和等ヲ擊退スルコトヲ得ヘシハ、支那紡ノ救濟(支那紡ノ日本紡化)

支那紡ハ一般ニ經營難ニ陷リ居レリ右ハ其ノ原因種々アルヘシト雖モ就中强力ナル在支日本紡(技術及資本ニ於テ)及優良廉價ナル本邦製品ノ壓迫ヲ其ノ根本的原因トスヘシ仍テ日本紡トシテハ單ナル商賣ノ上ヨリ云ヘハ支那紡ヲ此儘ニ放置シ日本紡ノ製品賣込ニ更ニ一段ノ努力ヲナセハ衄スシテ支那紡ヲ閉息セシムルコトヲ得ル理ナリ仍テ日本紡トシテハ一見何等特別ノ支那紡對策ヲ必要トセサル次第ナルカ茲ニ考慮スヘキハ日本紡ニ大打擊ヲ與フヘキ排日貨、支那政府ノ自國紡績保護政策(助成金交附)、勞働者取締傭入及支那產原棉調達上ノ便宜等ノ重要ナル問題アル外支那紡將來ノ技術進歩(現在ハ馬鹿ニナシ居ルモ)ニ對シ何等相等（當カ）永久的ノ準備ヲ整フルコト之ナリ勿論右ハ支那ノ現狀ヨリセハ日本紡トシテ現實緊急ノ問題ニアラスト雖モ之等諸問題ハ概ネ各日本紡ニ於テ過去ニ於テ經驗セルトコロナルニ依リ大膽ニ云ヘハ此際支那紡ノ悲境ニ附込ミ支那紡績支配ノ爲支那紡ト日本紡ノ番手上ノ分野ヲ設ケ支那紡技術ノ進歩ヲ抑止シ以テ當分ノ間日本紡ノ立場ヲ强化スヘキナリ幸ニ一二支那紡ヨリ我方紡績ニ對シ援助申出アリ(有吉公使來電參照)之等ヲ切掛トシ右工作ヲ斷行スルノ要アリ

ニ、日支金融連絡又ハ施設

支那金融ノ近狀ハ詳ナラサルモ全國金融ノ中樞タル上海ニ於テハ幣制ノ改革ト共ニ所謂新式銀行有力トナリ

錢莊無力トナリ金融ノ中心勢力ニ變轉ヲ來サムトシ居レル模樣ナリ乍去發券ハ多數銀行ニ依リテ行ハレ又外國銀行ニ於テモ行ハルル一方資力技術(特ニ爲替)ノ點ニ於テ遙ニ外國銀行ニ劣ルカ故ニ金融統制金融政策ハ思モ及ハサル所ナルヘシ右ニ因ルカ否カ不明ナルモ今次年關ニ當リテハ上海金融界ハ相當混亂セル模樣ナリ右支那側金融ノ亂雜無力ハ我方金融業者目前ノ算盤ヨリ見レハ有利ナルコトナラムモ政治ノ場合ト異リ如此狀態ハ日常取引ニ從事スル支那商民ヨリ見レハ生活問題ニシテ喜ハシキコトニアラス殊ニ支那金融制度ハ近年迄ハ政府ト關係ナク社會的ニ確立サレ來リ特殊ノ沿革ヲ有シ居レルヲ以テ現在ノ金融制度ハ何トカ改善ノ道ヲ講セサルヘカラス昭和四年頃上海ノ在銀高ノ一半ハ邦人ノ保有ニ係リ從テ同地金融操作ノ實權ハ實際上邦人銀行ノ手ニ在リタル理ナルカ現在尙其ノ狀態ヲ持續スルモノトセハ右保有銀ノ運用ニ當レル正金トシテハ徒ニ香上銀行ヲ利用シ單ニ保有銀ノ安全ヲ圖ルニ專念セスシテ(當時正金ハ如此取扱ヲナシ居リタリ)支那銀行ノ援助(邦人銀行カ親銀行ノ如キ地位ニ立チ支那銀行ヲシテ支那政府ニ對スル貸上及無暗ナル公債引受ヲナサシメサル樣處置スルコトヲ要スル)又ハ既述ノ如キ日支共同事業ニ投資スル樣政府ニ於テ正金等ヲ誘導スルノ要アリ(正金銀行ニ付テハ簡單ニ行カサルモ)要スルニ經濟工作ノ具体策トシテハ以上ノ通リナリ尙此外ニ各般ノ適當ナル事業モアランモ前記事業ハ支那關係企業中主要ナルモノニシテ假リニ其ノ一ニ付キ日支間ニ何等意見ノ合一ヲ見ルトスルモ其ノ政治的效果ハ相當大ナルモノアルヘシト思考セラル

頃者支那側ヨリ我方ニ對シ經濟協力ニ關スル申出モ現ハレ來リ特ニ排日家ト稱セラル宋子文カ此種意見ヲ表明スルニ至レルニ鑑ミ外務省トシテモ着々之カ準備ヲナスノ要アリト認メラル

四、外務省トシテ執ルヘキ當面策ハ

イ、宋子文ノ意向ヲ支那關係事業家銀行家ニ傳ヘ同時ニ之等關係者ヨリ情報ヲ聽取シ意見ヲ交換スルコト

右ノ結果如何ニ依リ在支公使ヲ通シ必要ナル工作ヲナスコト

ロ、在支主要領事ニ日支經濟提携ニ關シ意見ヲ徴スルコ

ト

ハ、出先ヲシテ(可成商務官カヨロシ)支那側有力筋ト近接セシメ經濟提携ノ機運ヲ釀成セシムルコト

ニ、本省ニ於テ支那經濟提携ノ具体策ノ研究ヲ開始スルコト

等必要ナリト思考セラル

編注一　原文では「市場及」以下「要アルニ對シ」までが二度繰返されているが、筆写の際の誤りと思われるため削除した。

二　二月二十日発在中国有吉公使より広田外務大臣宛電報第一〇五号。前掲につき省略。

〜〜〜

8　昭和9年3月2日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

国際合作による対中国財政的援助問題、日中経済提携問題および満州問題に関し宋子文と意見交換について

南　京　3月2日後発
本　省　3月3日後着

第一六八號（至急）

二[1]十八日宋子文ト面會シタル處宋ハ久濶ヲ敍スルヤ先ツ一、豫テ本官ヨリ「モネー」「ソルター」等ニ申入レ居ル次第（往電第一一三號）ヲ聽キ及ヒ居ルモノト見エ貴官ハ支那ニ對スル國際協力ニ付テ迄隨分考慮ヲ拂ハレ居ル樣子ナルカ元來貴國ノ「シークレツトサービス」ハ棉麥借款其ノ他米國等ノ對支投資ニ關シ途方モ無キ臆測ヲ流布シ居リ驚キ入ル次第ナリト皮肉ニ出テタルニ付本官ヨリ情報中ニハ勿論誤報モアル可キカ支那ニ最モ關係アル日本カ列國ノ對支政策ニ絶對ナル關心ヲ有スルハ當然ノコトナリト酬ヒタルニ宋ハ夫レトシテモ外國ヲ排除スルノ必要ハ認メラレスト述ヘタルニ付本官ヨリ然ラハ此ノ機會ニ忌憚無ク申上ケンカ支那ノ國際合作ニ關シ日本カ徒ニ他國ヲ排除スル等トハ全然誤解ニテ元來支那ノ開發ハ何事ニマレ日本ヲ除ケ者ニシテハ成立シ得サルヘキハ過去ノ事實モ之ヲ證明シ居リ右ハ日夜東亞ノ和平ヲ顧念スル日本ノ動カス可カラサル信念ナリト答ヘタルニ宋ハ貴見ハ政治論ヲ其ノ儘經濟問題ニ移シタルヤノ感アリト云ヘルニ依リ本官ハ支那ノ如キ無組織ノ國ニ西洋諸國カ矢鱈ニ投資センカ遂ニハ東洋ニ則セサル事態ヲ生スルコト必定ナレハ此ノ點ヨリスルモ日本ヲ排除スル國際協力ハ遺憾乍ラ認メ難シト強ク酬ヒタルニ宋ハ多少色ヲ爲シ斯ル支那觀カ困リモノナリ何カ無組織ナリヤト反問シタルニ付本官ハ何所ニ組織アリヤ歐米ヲ其ノ儘生寫ニセントスルコトカ無理ナリト應酬セル處宋ハ一時相當興奮セルモ之ハ大問題ナレハ他日ニ讓ル可シト云ヒ出シタリ

二、[2]依テ本官ヨリ貴見ハ失禮乍ラ支那ヲ知ラス又日本ヲ尚更知ラサル事ヨリ來ル理想論ヲ多分ニ包含スト指摘シタルニ宋ハ急ニ和ラキ日本工業ノ最近ニ於ケル飛躍ニ付テハ重大關心ヲ有スル處貴方ニハ何カ日支經濟合作ノ具体案テモ有ル次第ナリヤト尋ネタルニ付本官ハ合作ノ對象ハ

何程モ有リ例ヘハ㈠此ノ方面ニハ全然素人ナル自分限リノ思付タケヲ言フモ先年廣西省ニ遊ヘル際柳州ニ於ケル徒ラニ大仕掛ノ獨逸「ジーメンス」「アルコール」製造工場カ立腐レナルヲ見地方當局ニ指摘シタル處同省ノ農工ニハ日本ノ諸設備機械等ヲ應用スル事最モ適切ナリトノ話出テ日本ヨリ農業技師ヲ招聘シ又農耕具ヲ輸入シ又日本ノ手ニテ輕鐵ノ敷設迄實現シ度シトノ話合迄有リシ處ヘ滿洲事件有リテ沙汰止トナリタル事有リ又陳銘樞ヨリ海南島ニ臺灣ノ開發方策ヲ其ノ儘應用シタシトノ申出有リシ事モ有リ之等ニ付テハ二月二日上海ニテ廣西主席黃旭初ニ會見ノ際モ言及シ同主席モ孰レ時期ヲ見テ再考スヘシト申シ居リタル次第有リ又

㈡[3]棉種ノ改良及綿業ノ統制等ニ付合作ノ分野多カルヘク

㈢支那ニ異常ナル發達ヲ遂ケツツアル公路ニ想到センカ之ニ配スヘキ自動車卽チ支那ノ「モーターライゼーション」ハ好個ノ對象ナルヘク其他航空事業或ハ武器製造業等ニハ更ニ合作ノ可能性アルヘキ旨ヲ指摘シ得ヘシト述ヘタルニ宋ハ終始輕ク頷キツツ耳ヲ傾ケ御話ハ大ニ興味アリ實ノ處自分ハ最近ノ支那內部事情ニハ疎キニ付二週間以內位ニ戴天仇ト共ニ湖南湖北四川陝西等ノ視察ニ出掛ケル筈ナレハ御話ノ次第ハ特ニ參考トナル譯ナリ依テ之等ノ地方ニテ經濟委員會活動ノ見地ヨリ道路及運河ヲ視察センカト目論見居ルニ付今御話ノ「モーターライゼージョン」ハ特ニ面白シト述ヘ一方日本ノ工業ニ付其內人ヲ派シ研究センカトモ思ヒ居ル程ナレハ今後共頻繁ニ會見意見ヲ交換スルト同時ニ參考トナルヘキ材料ハ大ニ頂戴シ度シト述ヘタリ

三、[4]宋ハ更ニ經濟財政方面ノ話ハ追々何トカ行クトシテモ滿洲問題カ片附カネハ手ノ出シ樣無ク殊ニ明一日ヨリ帝政實施トナリ益々困難加ハルヘシト述ヘタルニ付本官ハ右樣ノ議論ハ好ク耳ニセルカ貴下ハ所謂滿洲問題ナルモノカ片附ク日アリト思ヒ居ラルルヤト問ヘルニ然ラスト答ヘタルヲ以テ本官ヨリ夫レ位ナラハ之ヲ云ヒ出サヌ方增シナリ又貴說ハヨモヤ今後ノ日支問題ハ一ニ懸ツテ滿洲問題解決ニアリト云フ意味ニハ非サル可シト反問セル處無論然ラスト答ヘタルニ依リ本官ヨリ然ラハ問題ハ明白ナリ滿洲問題ハ之ヲ write off スルカ夫レカ出來ネハ少クトモ之ヲ set aside スルコト政治家ノ任務ナルヘシト

強調シタルニ宋ハ自分ハ今政府外ニアリ(近ク復歸ノ消息アルカ如何ト尋ネタルニ無シト否定シ居タリ)斯ル政策決定ニハ直接關係無シト述ヘタルニ依リ貴下ノ如キ内外ニ有名ナル要人カ意見ヲ有セサル筈無シト突込ミタル處宋ハ私人トシテハ滿洲問題ト關係無ク何等カノ方法ニテ兩國間空氣ノ好轉ヲ計ル外途無キコト丈ハ tragically true ナリト考ヘ居ル旨答ヘ居タリ

支ヘ轉電セリ

9　昭和9年3月2日　在南京須磨総領事より
広田外務大臣宛(電報)

日中両国実業家の交流促進に関し陳公博実業部長同意表明について

南　京　3月2日後発
本　省　3月3日後着

第一六九號

一日陳公博ト會見ノ際本官ヨリ日支關係ハ好轉ヲ傳ヘラルルモ今尚双方ニ誤解ト疑惑アリ殊ニ支那側カ英、米、獨、伊諸國ト合作ヲ續ケ居ル爲愈日本側ノ疑念ヲ深メ居ルハ遺憾ニテ貴部長ハ右ヲ如何ニ思考シ居ラルルヤト問ヒタル處陳ハ友人トシテ御話申上クル次第ナルカ日支兩國ハ同種同文ナルノミナラス地理的ニモ密接ノ關係アリ外人ヨリ常ニ一單位トシテ考ヘラレ居ルヲ以テ協力スルカ當然ノ儀ナルニ拘ラス滿洲問題ノ爲當方ハ之ヲ知リツツモ提携シ得サル立場ニアリ已ム無ク歐米各國トノ合作ヲ續ケ居ル狀態ナルカ右合作ハ政府ニ別段定見有リテノコトニ非ス外國ノ申出ヲ行當リ次第取入レ居ルニ過キスト述ヘタルニ付本官ヨリ宋子文ト論シタル合作ノ對象(往電第一六八號二御參照)ヲ例示シ兩國貿易ノ「ノーマルシー」ヲ强調シタル處陳ハ熱心ニ贊意ヲ表シ

例ヘハ支那ハ日本武器ヲ輸入シ得サル爲徒ニ高價ニシテ優秀ナラサル外國武器ニ賴ル結果少カラサル損失ヲ受ケ居レリ此ノ點ニ想到シ居ル者ハ敢テ自分ノミニハ限ラサルヘキモ如何セン中央ノ對日空氣ハ尚不良ニテ此ノ種意見ハ到底通ラサル實情ナレハ先ツ此ノ空氣ヲ直スコト先決問題ナルヘシト述ヘタルニ依リ本官ヨリ先年「ルール」占領ヲ廻ル獨佛兩國關係カサシモ險惡ナリシカ之カ緩和ニ先ツ乘出セルハ兩國實業家ナリシ例モアリ私見ナルカ日支兩國實業家巨頭連モ虚心坦懷ニ相手方ノ經濟狀態視察ヲ目的トシテ來往ヲ頻繁ニセハ其ノ内適當ナル合作方法ヲ見出シ兩國關係ノ「イリゲーション」トナルヘク現ニ董康ノ赴日サヘモ兩國了解ノ促進ニ少カラス役立チ居レリト述ヘタル處陳ハ全ク贊成ナリ今後然ルヘク聯絡ヲ保チ凡ユル機會ニ支那有力實業家ノ赴日ヲ考慮スルコトト致度シト述ヘ居タリ

支ヘ轉電セリ

10　昭和9年3月12日　在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

満州国帝制実施の波紋ならびに棉麦借款の蹉跌に関する唐有壬内話について

上　海　3月12日後発
本　省　3月12日後着

第一五六號

十一日唐有壬來訪同人ノ本使ニ内話スル處左ノ通

一、滿洲國ノ帝制實施ニ關シ孫科一派ハ之ヲ利用シテ盛ニ汪兆銘及自分(唐)等一派ヲ攻擊シ先般立法院會議ニ於テ(一)對外聲明(二)僞國討伐(三)奸漢(漢奸カ)嚴罰(四)國内ニ對スル政府ノ態度政策ノ四項(南京發大臣宛第一七五號)ヲ決議シ之カ實行方行政院ニ迫リ來レル爲汪及自分ハ其矢表ニ立チタルカ苦心慘憺ノ結果(一)ハ既ニ國際聯盟ノ決議モアル故今更外國ニ對シ態度宣明ノ必要無シ(二)ハ傀儡政府討伐ノ聲明ヲ爲スハ却テ之カ存在ヲ認ムルコトトナル(三)奸漢(漢奸カ)ハ既往公布ノ法令ニ依リ當然處罰シ得ヘシトノ理由ニテ何レモ改メテ宣言等ノ必要無シトノコトニ決定シ居リ(四)ニ付テハ(イ)失地ノ武力回收ハ現在ノ國力ニテハ當分許ササルコト(ロ)僞國ヨリ侵略シ來ル時ハ之ヲ防禦討伐スル訓練アルコト(ハ)國内一致シテ國力ノ涵養ニ努ムヘキコトトノ趣旨ヲ國内ノミニ對シ宣言スルコトトセリ

右(ロ)ノ意味ハ自分ニ於テ至極苦心シテ作リ二三修正アリタルモノニシテ卽チ滿洲國カ侵略シ來レハ討伐スルモ侵略シ來ラサル時ハ討伐スル必要無キ次第ニテ結局現狀維持ヲ意味スル次第ナリ

二、棉麦借款ハ最近現在額五千萬弗ヨリ二千萬弗ニ減額シ内一千萬弗ヲ棉花ニ殘リ一千萬弗ヲ小麥(六百萬弗)麥粉(四百萬弗)ノ二口ニ變更セリ今日迄輸入ノ麥粉ニ對スル購買價格ト賣値トノ差額損害ハ約百二十一萬元ニ達シ居

リ之ニ見ルモ宋子文ノ失敗カ證明セラルル次第ニテ當分宋ノ財政部長復職ノ如キハ問題トナラサル次第ナリ

（本電内容發表セサル様致度シ）

北平、天津、南京、滿へ轉電シ上海へ轉報セリ

11　昭和9年3月15日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

満州問題が解決しない限り日中関係改善は実現不可能の旨顧孟余鉄道部長内話について

南　京　3月15日後発
本　省　3月15日後着

第二一三號

十四日顧孟餘ト會見セルカ先ツ國際技術合作ニ付尋ネタル處顧ハ本件ニ關シテハ夫々專門家ヲシテ材料ヲ蒐集ノ上立案セシメ居ルモ未タ成案ニ到達セス尤モ支那トシテハ英、米、獨、佛ノ何レトモ特殊關係ヲ設定スル希望ハ有セス最モ密接ナル關係アル日本トノ間ニ經濟上ノ提携ヲ計ルコトノ適切ナルヲ確信シ居ル次第ナルカ忌憚無ク謂フニ右ハ滿洲問題ニ關スル政治的接衝ヲ前提トスルモノナレハ遺憾乍ラ今ノ所貴官平素ノ主張タル日支合作ヲ實現致シ兼ヌル次第ナリト述ヘタルニ付例ニ依リ本官ヨリ今頃尚滿洲問題等ニ氣ヲ懸ケ居リテハ日支關係打開ノ途無カルヘキヲ以テ更ニ大ナル兩國間ノ問題ニ付實際的ノ關心ヲ拂フコト肝要ニテ殊ニ貴部長ノ如ク建設ニ直接ノ關係有ル方面ニ於テ日支合作ヲ試ミルコト然ルヘシト述ヘタル處成ル程御説ハ御尤モナルカ無力ナル支那トシテハ滿洲問題ニ付爲ス術無キハ當然ナルモ勝者タル日本ハ何等カ手モ有ルモノト思考セラル之カ解決セラレサル限リ兩國關係改善ノ途無キモノト謂フヘク現狀ニ於テハ御世辭トシテハ兎モ角支那ハ一寸手ノ出シ様無シ但シ日支ハ獨、佛ノ如ク宿敵相結ンテ解ケサルノ關係ニ在ルニハ非サルヲ以テ機會サヘ造ラハ好轉セシムルコト敢テ不可能事ニハ非サルヘク御互ヒニ努力致シ度シト述ヘ居タリ

支へ轉電セリ

12　昭和9年3月30日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

満州問題を棚上げしての日中関係改善は困難

との顔惠慶見解について

南　京　3月30日後発
本　省　3月30日後着

第二八〇號

二十八日午後漢口ヨリ着寧セル顔惠慶ト二十九日長時間時局談ヲ試ミタルカ其ノ中日支關係ニ關スル部分要領左ノ通

一、平津地方而已ナラス支那全般ニ亘リ日支問題ヲ忘レタルカノ如キ感アリ殊ニ豫テ昵懇ノ間柄ナル黄郛及舊友ヨリ得タル印象ニ依レハ支那政府筋ノ日本ニ對スル感情ハ大分緩和シ居レル模様ナリ只汪院長ハ事實如何ナル考ナリヤ又黄郛等ト飽迄事ニ當ルノ覺悟アリヤ自分ハ未タ審カニセストテ先ツ意外ノ言ヲ發シタルニ付本官ヨリ貴下ハ汪院長トモ數回會見セラレ居ルニ非スヤト輕ク水ヲ引キタルニ實ハ黄郛等ヨリ御聞及ヒノコトトハ思考スルモ滿洲事件發生直後支那ハ聯盟ニ訴フルコト無ク日本ト直接話合フヘキ旨强硬ニ主張セルハ自分ト黄郛ナリシモ王正廷、宋子文等ノ反對アリ事成ラスシテ今日ノ情勢ヲ招致シタル理ナルカ黄郛最近ノ心境モ當時ト何等變ル事無ク飽迄東亞平和ノ爲身ヲ投出スノ意氣込ナルヲ看取セルカ汪院長モ果シテ同様ナリヤ自問セル次第ナリ

二、(2)但滿洲問題カ聯盟ニ係リタルコト自體ノ「メリツト」ハ別トシ今トナリテハ列國ノ手前モアリ何トカ解決ヲ計ラサルヘカラス簡單ニ「セツトアサイド」出來ルモノニアラス又率直ニ申セハ人ノ手ヲ切取リ之ヲ忘レヨト言フニ等シク無理ナ註文ニテ事實自分モ茲數ケ月聯盟ニ於ケル自分ノ主張等トハ離レテ不充分乍ラモ各當事者ヲ滿足セシムルカ如キ解決方式ヲ見出サント智慧ヲ絞リ居ルモ仲々困難ニテ閉口シ居レリト述ヘタルニ付本官ヨリ貴下ハ今尚聯盟流ニ find a formula 式ノ考方ニ囚ハレ居ル様子ナルカ日本ノ聯盟脱退ニ依リソンナ御苦心ハ最早不用ニ歸シタルノミナラス滿洲問題自體カ日本上下ノ眞劍ナル信念ニ依リ既ニ解決濟ナリト言フヲ得ヘク此ノ事實ヲ無視セル議論ハ futile ナリト述ヘタルニ顔ハ然ラハ日本ハ如何ナル「コンペイセイシヨン」ヲ出ス譯ナリヤト問ヘルニ付本官ヨリ支那カ東亞ノ事態ニ目覺レハ其ノ内部的混亂整理ニ付日本ノ有力且好意的援助ヲ期待シ得ヘク之以上ノ褒章ハアラサルヘシト應酬セリ

三、(3)次テ顔ハ支那ニ對スル國際術策ニ付テハ種々ノ案ヲ考ヘ

得ヘキモ御説ノ通先ツ日本トノ提携カ其ノ根本タルヘク支那農工業ノ整理若ハ建設ニ對シ日本程重要ナル助力ヲ與ヘ得ヘキモノ無キハ御世辭拔キニ充分自覺シ居ル次第ナルカ今ノ儘ニテハ支那モ他ノ方法ヲ選ハサルヲ得ス善惡ハ二ノ次トシテ歐米人ノ「アドバイス」ヲ求メ居レリ(本官ト行違ニ「ライヒマン」ノ辭去スルヲ見タリ)ト述ヘタルニ依リ本官ヨリ貴下等カ日本トノ提携ヲ必要ナリト信スル以上既ニ財政部及外交部等ノ書庫ニ山積シ居ル美辭麗句ヲ列ネタル支那開發案ヲ此ノ上作ラシメ見テモ全ク無駄ナレハ今ノ中方向轉換ヲ策サレテハ如何ト卒直ニ述ヘタルニ顏ハ「ライヒマン」モ近ク歸歐スル趣ナリト簡單ニ答ヘ居タリ

四、尙顏ハ支那側ノ一部ニ日米若ハ日蘇戰爭勃發ヲ想像シ居ル向有ルハ貴説ノ通ナルモ今同ノ日米挨拶交換ニ依リ前説ハ大分氣勢ヲ削カレタル形ナリ後者ニ付テハ自分等ヨリ蘇側ハ如何ナル外敵ヲモ引受クヘキ覺悟ヲ以テ準備シ居ルハ事實ナルモ進テ他國殊ニ日本ナドト事ヲ構フル譯ハ有リ樣無ク日本亦蘇聯ヲ襲フノ愚ハ爲ササルヘシト説明シ納得セシメ居ル次第ナリ旁此ノ儘日支兩國當局者ノミナラス新聞等カ今一息ノ努力ヲ以テ好轉ニ油ヲ注ケハ相當顯著ナル結果ヲ擧ケ得ヘキカ何シロ滿洲國等ノ難題山積シ居ル今日何人モ進テ外交部長ナドハ引受ケサルヘシト述ヘタル上自分ハ廿九日赴滬シ杭州ニモ赴キ四月十日頃迄ニハ再ヒ天津ニ行キ嘗テ關係セル二三事業及家事ヲ整理ノ上或ハ五月頃一應歸任スルヤモ知レサルモ出來得レハ此ノ儘後進ニ途ヲ開キ度キ希望ナルカ日支關係正常化ニ付テハ黨籍無キモ私人トシテ黃郛等ト共ニ微力ヲ盡シ度キ所存ナリト語リ居タリ

支、北平、天津ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

13　昭和9年4月9日　広田外務大臣より在米国斎藤(博)大使、在英国松平(恒雄)大使、在中国有吉公使他宛(電報)

満州事変を境に東亜の形勢には重大な変化が生じたことを中国側は認識すべきとの重光外務次官の見解通達について

付記　十月二十日付、作成局課不明

「對支政策ニ關スル重光次官口授」

本省　4月9日発

合第三七四號

往電合第三七三號ニ關シ

三月二十九日來訪ノ湯爾和其他支那側ニ對スル重光次官ノ説明振貴官應酬上ノ御參考迄左ノ通

一、日支兩國人トモ最近漸次平靜ヲ回復シ來レルモ冷靜ニ双方ノ感情ヲ觀察スル時ハ其ノ間豫想外ノ喰違アリ卽チ支那側ニ於テハ今尙日本ニ對シ誤解ヲ有スルモノ少カラス日本ハ滿洲ヲ事實上我物トシテ之ヲ獨立セシメ更ニ進ンテハ帝制ヲ施シ又北支方面ニ對シテモ支那人ノ復辟感情ヲ利用シテ侵略ノ手ヲ延サントシ居レハ此ノ日本ノ侵略ヲ妨ク爲ニハ歐米人ノ力ヲ以テスルノ外ナク聯盟ハ勿論米露獨伊等凡ユル國ヲ利用スヘシトテ此等諸國ヨリ或ハ顧問軍事教官又ハ專門家等ノ名義ヲ以テスル人的援助或ハ飛行機武器等ノ物的援助ヲ受ケ居リ日本ニ對抗センカ爲ニハ自分ノ國ニ利益アリヤ否ヤヲ省ミルノ暇ナキモノアル狀態ナリ

二、然ルニ日本側ノ氣持ハ一般的ニ云ヘハ之ト著シク差異アリ。凡ユル忍耐ト讓步トヲ續ケ來レルニ拘ラス世界中ニ於テ日本ニ殘サレタル唯一ノ活動區域タル滿洲ヨリ日本ヲ排斥シタル爲メ滿洲事件發生シタルモ元々滿洲ハ孫文邊ニ於テ既ニ革命當初ヨリ繰返シ日本朝野ニ約束シ來レル地域ナルノミナラス日本人ノ血ト財トヲ以テ固メラレタル土地ニシテ之ヲ日本ノ活動區域トスルハ單ニ孫文ノミナラス孫文沒後モ度々支那要路ノ提唱セル處ニテ現ニ滿洲事件突發前廣東政府ハ外交部長陳友仁ヲ通シ其ノ意ノ存スル處ヲ通知越セル位ナリ。滿洲事件サヘ此意味ニテ片附ケハ後ハ問題ハ無クナルモノト日本人ハ一般ニ考ヘ居レリ。而モ滿洲國ノ獨立ハ總テノ問題ヲ解決スル譯ナレハ之ニテ日本人ハ安心セル形ナリ蓋シ滿洲國ノ獨立ノ形式ハ寧ロ日支兩國双方主張ノ中間的解決方法ニシテ卽滿洲國ノ日本領土ニ非ルコトハ其ノ獨立進デハ帝制實施ニヨリ一段ト確認セラルルト共ニ支那ニ於テモ從來ノ如ク日本ヲ此ノ地ヨリ排斥出來サルコトトナレル譯合ナリ。双方ノ面目ノ立ツ此中間解決ヲ得テ日本人ハ今ヤ一息ツキ居ル狀態ナレハ進ンテ支那本土ニ事ヲ構ヘントスルカ如キコトハ到底一般日本人ノ頭ニナキコトナリ

三、此ノ中間案ニ對シ今日支那人ハ不滿足ニ考ヘ居ルモノノ如キモ漸次之ヲ考究スルニ從ヒ右カ一ノ適切ナル解決案ナルヲ自覺スルニ至ルヘク本解決案ハ滿洲ニ對スル孫文以來ノ思想ヲ根幹トシタルモノニシテ日支間ノ癌ト見ラレタル滿洲問題ヲ解決シ更ニ東亞ニ於テ日支兩國カ共ニ責任ヲ分擔シテ平和及秩序ノ維持ニ邁進スルノ基礎トナリ得ヘキモノナリ若シ双方ノ政治家カ此ノ大道ヲ理解シ最近好轉ノ途ニアル兩國ノ事態ヲ善導シ行クニ於テハ時ト共ニ日支兩國ノ關係ハ寧ロ滿洲事件前ヨリ却テ一層良好トナルヘシト觀測セラル

四、茲ニ注意ヲ要スルハ滿洲及上海事件ノ前後ヲ通シ日本人ノ心理ニ非常ナル變化ヲ來シタルノ一事ナリ日本ハ之等事件ノ爲世界ヨリ受ケタル誤解ヲ解ク爲聯盟及其ノ他凡ユル方面ト戰ヒ今日迄自己ノ正當ト信スル處ハ一歩モ讓ラス世界モ亦次第ニ日本ノ立場ヲ諒解シ之ヲ承認スルニ至レリ。其ノ結果日本ハ東亞ニ於テ自己ノ正當ト信スル處ハ飽迄之ヲ遂行シ得ヘキ地位ニアルコトヲ知ルト共ニ此ノ地位ニ伴フ責任ヲ自覺シ且此ノ責任ヲ果ス自信ヲ有スルニ至レリ。日本ハ東亞ノ平和及秩序ヲ維持スル爲ニハ支那ト責任ヲ分ツ以外ニハ他ニ責任ヲ分ツ何者モナク又他ノ何者トモ之ニ關シ協議スヘキ必要ナシトノ確信ニ到達セル次第ナリ若シ支那カ過ツテ今後モ歐米露等第三國ヲ利用シ東亞ノ平和ト秩序ニ反スルカ如キ手段ニ出ルニ於テハ日本ハ斷然之ヲ排擊スルノ用意アリ若シ然ラスシテ支那カ其ノ東亞ニ於ケル責任ヲ自覺シ日本ト共ニ東亞ノ秩序維持ヲ分擔スルノ意思ヲ示シ來ルニ於テハ日本ハ喜ンテ支那ト提携シ更ニ進ンテハ之ヲ援助スルノ決意ヲ有シ居レリ、滿洲事件ノ以前ト以後トニ於テ東亞ノ形勢ニ重大ル變化アリシコトハ支那側ニ於テモ充分之ヲ認識スルノ要アルヘシ

本電宛先合第三七三號ノ通

佛ヨリ英露土ヲ除ク在歐各大公使及壽府ヘ轉電アリタシ

(付　記)

對支政策ニ關スル重光次官口授

（昭和九、一〇、二〇）

我カ東亞政策實現遂行ノ見地ヨリ對支政策ヲ觀察スルニ現ニ日本ノ執リツツアル政策ヲ一層徹底的且具体的ニ遂行スル爲ニハ㈠支那ニ於ケル外國及外國人ノ政治的勢力ノ驅逐㈡日支兩國及兩國民ノ將來ノ融和提携ヲ誘導スル手段ノ二方面ヨリ更ニ考察ヲ加フルノ要アリト思考ス

即今ヤ東洋各地ヲ殖民地扱トシテ總テノ政治的經濟的政策ヲ遂行シ來レル歐米各國人ノ勢力ヲ支那ヨリ驅逐スルト共ニ支那自身ニ對シテハ之ニ依ル利益ヲ提供シ所謂「引キ」ノ手ヲ打ツノ必要アル時機ニ達セルモノト認ム

日本ハ過去一年半ノ間主トシテ排日其他ノ日本反抗運動ニ對シ支那ニ強ク反省ヲ促スト共ニ苟モ英米其他ノ外國カ支那ニ於テ政治的利權ヲ伸張シ又ハ日支關係ヲ惡化セシムル如キ結果ヲ生スヘキ行動ニ出ツルコトヲ強ク排擊シ來レリ聯盟ノ技術的合作ノ排擊、米國ノ棉麥借款ノ破壞、飛行機賣込ニ對スル反對ノ如キハ全ク右ノ見地ニ出テタルモノナルカ最早大体ニ於テ英、米等ハ支那ニ於テ日本ノ意向ヲ無視シテ政治的策動ヲ爲スコトノ不可能ナルノミナラス經濟的方面ニ於テモ日本ト共力（協力）スルノ利ナルヲ覺リ來レルハ疑ナシ

依テ今後ノ措置トシテハ更ニ進ンテ各國カ支那ニ樹立セル政治的勢力及其ノ機構ヲ破壞スルト共ニ右破壞ニ依伴スル利益ヲ支那ニ感得セシムルコト最モ得策ニシテ之ニ依リ日本ハ大局上ノ利益ヲ收ムルト共ニ日支關係ヲ融合セシムルコトヲ得ヘク而シテ其ノ具体的手段トシテハ次ノ二者アリ即

(1)海關制度ノ破壞

今ヤ海關制度ヲ外國人殊ニ英國人ノ勢力下ニ統一スルノ要ナク寧ロ之ヲ支那人ノ手ニ返スヘキ時機到達セルモノト謂フヘク或ハ其ノ結果多少能率其他退化ノ虞アルヘキモ右ハ已ムヲ得ス日本トシテハ我方ニ不利ナルコトアラハ實力ヲ以テ自己ノ利益ヲ擁護スルコト可能ナリ

(2)支那ニ於ケル歐米各國武力ノ撤退

(イ)各國北支駐屯軍ノ撤退

(ロ)各國支那艦隊ノ撤退若ハ縮少

先ツ第一ノ段取ハ各國北支駐屯軍ノ撤退ニシテ之カ爲ニハ日本ハ宜シク在支公使館ヲ大使館ニ昇格シテ南京ニ移シ北平ニハ總領事ヲ置キ唯公使館區域ノ行政等ニ付不利益ヲ蒙ルコトナカラシムル爲右總領事ヲシテ兼任書記官ノ資格ニ於テ公使館區域ノ行政ニ參加シ又ハ

公使團會議ニ聯絡ノ爲出席セシムルノ程度ニ止ムルコトトシ既ニ勢力ナキ公使團會議ノ如キハ漸次解体スル様仕向クルヲ可トス

我方ニ於テ前述ノ如キ手段ヲ執リ英米等ヲモ誘ヒ其ノ公使館ヲ南遷スル様仕向クルニ於テハ各國ノ北支駐屯軍ハ自ラ撤退スルノ氣運ニ導キ得ヘキ處我方トシテハ既ニ長城附近滿洲國領ニ日本軍ノ駐屯セル今日我カ北支駐屯軍ノ引揚ニヨリ格別ノ不利損失ヲ蒙ルコト無カルヘク要ハ外國ノ武力ヲ北支方面ヨリ一掃シ依テ以テ同方面ニ於ケル支那側及各國ノ政治的注目ヲ少クセントスルニアリ右ハ我カ北支政策ノ遂行上基礎的根幹ヲナス仕事ナリト考フ而シテ其ノ結果或ハ公使館區域ノ如キハ自然ニ支那側ニ還付スルコトトナルモ差支無カルヘク以上ノ如キ方法ニ依ルトキハ一面外國ノ政治的勢力ヲ驅逐スルト共ニ他面支那側ニ何等利益ヲ提供スルコトヲ得ル次第ナルカ更ニ第二段ノ方策トシテハ進ンテ海軍軍縮會議ノ成行等ヲモ照應シ出來得ル限リ各國ノ支那艦隊ヲ撤退若ハ縮少セシムル様仕向ケサルヘカラス

以上(1)及(2)ノ二點ハ差當リ現實ニ實行可能ナリト思考スル處次ニ來ルヘキ問題ハ租界ノ解体、治外法權ノ撤廢等ナルヘク右ハ容易ニ實現シ得ヘキモノニ非サルモ前述ノ目的達成ノ後ハ日本ノ利益ノ爲是等ノ問題ヲ考慮スヘキ時機將來到來シ得ヘキ性質ノモノトス

以上ノ政策ニヨリ外國ノ政治的勢力ヲ驅逐スルト共ニ支那ニ於ケル各國ノ利益ニ對スル Security ハ日本カ事實上擔任スルコトトナル次第ナルカ各國ハ通商經濟上ノ均等待遇ヲ與フレハ滿足スヘク又滿足スヘキモノナリト思考ス

而シテ支那自身ニ對シテハ前述ノ如キ政策ノ process ヲ遂行シ日支融合ノ基礎ヲ作ルト共ニ各方面ノ經濟的協力ニ向ツテ全体的且又地方的ニ事々物々進ミ行クコトトセサルヘカラサルハ勿論ナリ

以上貴大使ノ御參考迄

14 昭和9年4月20日 在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

日中両国対等関係による共存共栄および満州問題の平和的解決という日中国交二大原則の確立方汪兆銘より提議について

南京 4月20日後発
本省 4月20日後着

第三六八號

有吉公使ヨリ左ノ通[1]

十八日汪兆銘ト會見ノ際南京發往電第三六六號及第三六七號ノ談話ニ引續キ

一、本使ヨリ日支無線聯絡問題モ既ニ開談サレ爾來至極圓滿ニ交渉進行シ居ルハ至極結構(構カ)ニテ其ノ他ノ問題ニ付テモ斯ノ如ク順次解決ノ歩ヲ進メ事實ヲ以テ兩國ノ關係復舊ヲ實證スルニ於テハ事態ノ改善ニ資スル所大ナルヘシト述ヘ更ニ閣下就任以來ノ和平的工作及最近米國記者ニ與ヘタル對支態度ニ關スル閣下ノ「インタービュー」等ニ關シ説明シタル上貴方ニ於テ我方ニ對シ何等希望等アラハ歸朝ノ際本使ヨリ大臣ニ傳達シ篤ト相談スヘキ旨告ケタルニ

二、汪ハ廣田外相ノ國際的和平工作ニ對シテハ自分モ大ニ敬服シ居リ就テハ此ノ機會ニ何トカ兩國關係ノ改善促進ノ途ヲ講シタキ希望アリ實ハ之ハ全然外交的提議ト言フ筋ノモノニ非ス相談的ニ御話シ申上クル次第ナルカト前提シ右關係改善ノ爲ニハ此ノ際兩國間ニ一種ノ原則ヲ定メ置キ之ニ基キテ進ムコト效果的ナリト考ヘ居レリ卽チ(一)兩國ハ共存共榮スヘキモノタルコト併モ其ノ共存共榮ハ國家百年ノ計(タル)ヘキモノニシテ一時的ノモノニ非ス更ニ例言スレハ若シ日本カ支那ヲ待ツニ英國ノ印度ニ對スルト同樣ニ遇スルコトナク恰モ獨、墺兩國ノ如キ關係ヲ結フニ於テハ兩國ノ共榮ハ容易ニ實現セラルヘク又日本トシテモ之ニ依リ英國ノ印度ニ對スルヨリヨリ以上ノ利益ヲ收メ得ルモノト考ヘ居ル次第ナリ

(二)[2]次ニ現在兩國ノ隔離セル原因ハ滿洲問題ニシテ之ニ對シ兩國ノ主義ハ根本的ニ相違シ居ル處此ノ原因問題ニ觸レスシテ到底事態ノ改善困難ナル現狀ニ鑑ミ茲ニ兩國ハ滿洲問題ヲ將來誠意且ツ和平的方法ヲ以テ解決ストノ原則ヲ定メ度シ卽チ換言スレハ今後日本モ武力ヲ以テセス又支那モ亦義勇軍等(ノ)力ヲ以テ對抗セス双方平和的方法ニテ解決ストノ趣旨ヲ定ムル次第ナリ右二原則ノ設定ニ對スル貴見如何ト申出タリ

三、依テ本使ハ御話ノ中(一)ニ付テハ本使就任當時貴下ノ御意

見モアリ本使ニ於テ全然同感ノ旨答ヘ置キタル通ニテ何レノ點ヨリ見ルモ兩國カ共存共榮ス可キモノタルコトハ何等異議アル可キ筋合ノモノニ非サル處(二)ノ點ハ果シテ如何ナルコトヲ意味スルモノナリヤト不審シタル上抑々滿洲國ノ存在ハ既成ノ事實ニシテ之ヲ如何トモ變更スル餘地無キコトハ既ニ累次本使ヨリ言明シタル通ナリ從テ此ノ事實ニ觸ルルモノナルニ於テハ全然考慮ノ餘地無シトテ一應釘ヲ刺シ置キタルニ汪ハ支那側ノ立場ヨリ云ヘハ滿洲問題解決セサル限リ國民ノ感情ハ止マス例ヘハ親善モ困難ナル事態ニテ而モ國民ハ滿洲ノ回復ヲ前提トシ居ル次第ニ付此ノ點ニ鑑ミ前顯(二)ノ原則ニ依リ國民ニ對シ據リ所ヲ示ス必要アル次第ナリトテ尚種々迂遠ナル論ヲ試ミ居タルカ

四、[3]本使ヨリ滿洲事件發生ノ原因ハ貴下モ充分承知シ居ラルル筈ナルカトテ簡單ニ日露戰後ノ經緯既往ニ於ケル獨立的事實張家ノ不法等ニ關シ一言シタル上此ノ際寧ロ支那カ東亞ノ大局ニ着眼シ釋然トシテ既往ノ感情ヲ捨テ一歩ヲ進メテ日滿支三國共存共榮ノ方針ニ出ツル事我方ノ希望スル處ナリトノ趣旨ヲ述ヘタルニ

五、汪ハ右既往ノ經緯ニ付テハ充分ニ了解シ居レリ自分ハ犬養內閣當時滿洲問題解決ノ機會有リシテ拘(ニカ)ラス遂ニ其ノ機ヲ失シタルモノト考ヘ居ルカ現在トナリテハ支那國民トシテハ此ノ儘ニテ日本ト親善セヨト言フモ到底了解出來サル次第ナルカ例ヘハ滿洲問題ハ兩國間ニ於ケル海上ノ暗礁ト等シク之ヲ取去ル必要有ル處今直ニ取リ去ル事ハ困難ナルニ付該暗礁ヲ一時其ノ儘保留シ置キタル儘船ヲ通航セシメントスル次第ナリ卽チ右ノ如キ原則ヲ定メ置ケハ國民モ據リ所カ出來ル次第ナリト述ヘタルニ付本使ハ更ニ右汪ノ例言ヲ一應繰返シテ念ヲ押シ卽チ滿洲問題ハ解決困難ナルニ付其ノ儘保留シ置クモ右ノ如キ原則設定ニ依リ國民指導ノ據リ所ヲ得テ親善ノ途ヲ開カントスルモノト解釋スル旨ヲ述ヘ右委細了解セルニ付貴意ノ次第篤ト外相ニ報告シ考慮ヲ求ムヘキ旨答ヘタルニ

尚[4]汪ハ右ノ意見ハ自分ニ於テ早クヨリ考ヘ居タルモ實行ノ見込立タスシテ發表スルハ徒ニ反對ヲ招キ成功スル所以ニアラスト認メ今日迄言出スコトヲ差控ヘ居タル次第ナルカ若シ日本側ニテ右原則決定ニ同意セラルルナラハ自分ノ方ニテ必ス之ヲ實行シ得ル自信アリト言明シ得右

御含ニテ實現方努力ヲ請フト述ヘ尚本使歸任後早目ニ會議シ度ト希望セリ

六、尚右ニ引續キ本使ヨリ前顯御話ノ點ハ別トシ目前ノ事態ニ處スル爲兩國共各猜疑心ヲ去リ人心ノ平靜安定ヲ期スル必要アル次第ヲ述ヘ之カ爲ニハ支那カ從來ノ如ク歐米ノ力ヲ借リ以夷制夷ノ政策ヲ採ルノ不可ナル次第ヲ說示シ尚航空機ノ購入飛行場ノ設置顧問ノ雇入等歐米本位ノ事例ヲ指摘シ警告ヲ與ヘタルニ汪ハ既往ニ於テ少シク歐米方面ノ援助ヲ借リタルモ右ハ素ヨリ以夷制夷的ノ趣旨ニアラサル處之迄日本側ノ力ヲ借ラス歐米ノミト相談スルコトカ日本側ノ不滿ヲ買フ所以ナルコトハ了解シ居リ今ノ處積極的ニ日本ト握手スルコトハ困難ナルモ今後ハ消極的ニ日本ト聯絡シ日本側ノ惡感ヲ釀成セサル樣努力スヘシト答ヘ尚再ヒ福建事變ニ對スル我方ノ態度ニ言及シ日本側ニ於テ將來モ同事變ニ於ケルト同樣支那ノ事變ニ際シ策動スル等ノコト無キ樣セラレタク左スレハ國民ヲ指導スル上ニ於テ頗ル有(效)ナリト述ヘ居タリ

支へ轉報セリ

北平、滿へ轉電セリ

15　昭和9年4月21日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛(電報)

滿州問題および大連への中国税関設置に関し孔祥熙財政部長と意見交換について

上海　4月21日後発
本省　4月21日後着

第三一八號

二十日本使孔祥熙ト會談ノ際

一、孔ハ日支國交ノ現狀ヨリ延ヒテ滿洲國問題ニ言及シ例ニ依リ支那側一流ノ議論ヲ持出シ滿洲國ノ存在ヲ前提トシテハ到底國民ノ了解ヲ得ルコト能ハストテ滿洲國ノ成立經過等ニ付頻ニ嫌味ヲ並ヘ居タルカ本使ハ懇切ニ我方ノ嚴然タル主張及態度ヲ說示シタル上此ノ際大局ニ着眼シテ滿洲國ノ存在ナル既成事實ヲ認メ更ニ一歩ヲ進メテ日支滿三國ノ共存共榮ヲ計ルノ必要アル旨ヲ切言シ其ノ蒙ヲ開クニ力メタルカ孔ハ支那ノ立場ハ仲々左樣ニ行カストテ苦笑シ居タルカ軈テ言ヲ更メ兩國ハ假令一時反目スルモ唇齒輔車ノ關係アル接壤(壤カ)國ナル以上結局ハ共存共榮ノ關係ニ立チ歸ルヘキ必然的運命ニアリト述ヘ議論ヲ打

切リタリ

二、右談話ニ關聯シ孔ハ大連ニ支那稅關設置ノ希望アル旨ヲ述ヘ我方ノ態度ヲ質問シタルカ本使ハ本件ハ曾テ「メーズ」ヨリモ内々希望ヲ申出テタルコトアリ本使ニ於テモ密輸出取締ニ關聯シ研究中ナルカ滿洲國トノ關係モアリ簡單ニ措置シ得サル事情アリト答ヘタルニ孔ハ大連ニ關スル限リ日本ノ一存ニテ乃至ハ少クトモ日本ノ意見ニテ如何樣ニモナルコトト思ハルルニ付此ノ上トモ考慮ヲ加ヘラレタシ尚御歸朝ノ機會ニ大臣ニモ支那側ノ希望ヲ傳達セラレ相談アリタシト申出テタリ

三、右ノ外本使ノ問ニ對シ孔ハ銀公司ノ設立ハ國内銀行トノ交渉其ノ他目下準備中ナルモ未タ成立決定迄ニハ至ラサル由語リ居タリ

北平、南京、天津、青島、滿ヘ轉電シ、上海ヘ轉報セリ

編　注　本電は同日発在中国有吉公使より広田外務大臣宛第三一七号（第45文書）の別電。

16　昭和9年5月(2)日　在中国若杉（要）公使館一等書記官より広田外務大臣宛（電報）

華北での邦人の策動関与および満州問題など日中関係改善の阻害要因を湯爾和指摘について

北平　発
本省　5月2日後着

第一九七號

最近本邦ヨリ歸來セル湯爾和一日本官ヲ來訪シ閣下並ニ重光次官トノ會談ニ依リ我對支政策ノ眞意ヲ了解シ又本邦朝野ノ對支感情最近著シク緩和セルヲ知ルコトヲ得頗ル喜ヒ居タル處今回外務省非公式聲明ニ依リ不必要ナル反響ヲ捲起セルハ不幸ニシテ過日上海ニテ黄郛ト會見ノ際ニモ黄カ頗ル悲觀ノ體ナリシヲ以テ本邦ニ於テ得タル最近ノ情勢ヲ傳ヘ之ヲ慰メ置キタル次第ナルカ今回ノ非公式聲明並ニ在米大使ノ言説カ閣下ノ御話ト全ク矛盾セルハ遺憾ナリト述ヘタルニ付本官ハ過日許卓然ニ對シテ説明セルト同樣累次御來電ノ御趣旨ニ基キ我方ノ根本方針ヲ懇切ニ説明シタル處湯ハ自分等ハ夙ニ之ヲ了解シ居ルモ折角緩和シツツアリシ日支關係ニ不必要ナル刺戟ヲ與ヘタルハ好マシカラスト述ヘ居タリ

尚湯ハ重光次官及有吉公使等ノ本官ニ對スル御口添モアルニ付極メテ腹藏ナキ意見ヲ述フヘシトテ

(一)、本邦滯在中感シタル事ハ日本朝野カ頗ル神經過敏ノ狀態ニアルモ最近漸次鎭靜ニ傾キツツアル事

(二)、天津、山海關地方ニアル日本及朝鮮人ノ不良分子カ支那側一部ノ策動ニ利用セラルルコトヲ取締ラレ度コト即チ開灤炭坑ノ「ストライキ」、天津馬占山宅ノ爆彈投擲及天津公安局事件ノ如キハ孰レモ日本人ノ所爲ナリト支那側ニ宣傳セラレツツアルモ是等日本人カ却テ支那側一部ノ策動（之カ説明ヲ憚リ東北派ノ策動ナルヤノ印象ヲ與ヘタリ）ニ乘セラルル嫌アルカ如シ

(三)、日支關係ハ種々一時的ノ紛糾ハ有ルモ根本ニ於テ共存共榮ノ理ヲ相互ニ理解セハ必スシモ悲觀ヲ要セサルモ而モ根本ニ於テ滿洲問題カ解決セラレサルニ於テハ眞正ノ親善ハ爲シ得サルニ付徐々ニ之カ解決ノ機運ヲ齎ス樣双方努力ヲ要スルコト

ノ三點ヲ擧ケ居タリ

支、滿、南京、天津ヘ轉電セリ

17　昭和9年5月18日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

日中両国間における満州問題の取扱い方に関し孫科と意見交換について

南京　5月18日後発
本省　5月18日後着

第四九八號

十七日孫科ト會見ノ際孫ヨリ有吉公使カ對支强硬政策ヲ齎シ歸任ストノ新聞報道ハ事實ナリヤ又最近所謂直接交渉ニ入ル譯ナリヤトテ相當懸念氣ニ尋ネタル處此ノ機會ニ本官ヨリ支那トノ交渉ヲ直接行フ可キ旨聯盟其ノ他ニ於テ累次聲明シ之カ爲聯盟ヲモ脫退セル次第ナルカ今更直接交渉等ト騷立ツル必要無ク日本ハ幾多ノ懸案ヲ漸次解決スル爲從來通リ進ミ行クニ過キスト應酬セルニ孫ハ東四省問題ハ如何ト尋ネタルニ依リ本官ヨリ其ノ事ナラハ滿洲國ニ相談スルコト然ルヘシ日本ハ掛合無シ貴下等カ未タ此ノ種考方ヲ棄テサルハ支那ノ爲ニ取ラサル所ニテ新聞記者ニ與ヘタル「インタヴュー」ニ於テ滿洲問題解決セサレハ直接交渉ニ入リ得スト述ヘタル由ナルカ斯ノ如キ言辭ハ兩國關係ヲ惡化

セシムル以外何等效果無ク先日本官トノ會見ニ於テ(往電第一四三號)貴下カ支那ハ外國トハ之レ以上關係ヲ密接ナラシメス日本トハ之レ以上關係ヲ惡化セシメスト言ハレタル所トモ矛盾スルニ非スヤト突込ミタルニ孫ハ何時ニ似ス反駁モ加ヘス新聞報道ハ其ノ儘信用シ難シト述ヘ自分トシテハ事ヲ荒立テサル心算ナルモ日本側ハ先日ノ非公式聲明等ニ依リ支那ノミナラス世界ヲ刺戟スルカ如キ傾向アルハ面白カラスト顧ミテ他ヲ言ヘルニ付本官ヨリ我方眞意ヲ說明ノ上過激ノ空論ニ走ラントスル立法院委員等ヲ適當指導方申入レ置キタリ

支、北平ヘ轉電セリ

18　昭和9年5月19日　在漢口清水(八百一)總領事より
広田外務大臣宛(電報)

共産勢力討伐戰の成功ならびにその理由に関する江西省建設庁長内話について

漢　口　5月19日後発
本　省　5月19日後着

第一三三號(極秘)

九江發本官宛電報

第三八號

大臣ヘ轉電アリ度シ

第四七號

他用ニテ來訪セル(飛カ)贛江西省建設廳長カ共匪討伐狀況ニ關シ極秘トシテ小官ニ内話セル處左ノ通

(一)當省内ニ於ケル共匪討伐ハ最近著シク進捗シ大体本年内ニハ片付ク見込ナルカ三年前ニ於テハ匪害ヲ蒙ラサリシハ僅九縣(全省八十一縣)ナリシモ目下全然收復シ得サルハ六縣ノミトナリ匪軍ノ散在セル區域ヲ合算スルモ十數縣ヲ殘スノミトナレリ

(二)右ノ如キ早急ナル成功ハ經濟封鎖ニ依ル處勿論大ナルモ最モ奏功セルハ道路政策ニシテ既ニ自働車運轉可能ノ道程既ニ二百「キロ」自働車數約三百臺ヲ算スルニ至レリ

(三)道路政策ニ次キ奏功セルハ飛行場ノ建設ナルカ共匪カ飛行場ヲ恐ルルコト豫想外ニシテ中央側トシテハ必シモ飛行場毎ニ飛行機ヲ配備スル意思無キモ匪軍カ飛行場建設ノ次第ヲ知ラハ其ノ附近數縣ヨリ後退シ出沒セサルニ至ルヲ以テ戰ハスシテ勝ツ一手段トシテ建設セラレツツア

ル次第ナリ

(四)大飛行場ハ一行政區域ニ一個ノ割(即江西省二十三個)ニテ建設中ナルカ着陸場ハ相當多數ニ上リ居レリ云々

支、北平、南京、漢口ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

19　昭和9年6月8日　在南京須磨総領事より
広田外務大臣宛(電報)

日中国交二大原則に関する汪兆銘提議に対し広田外相の回答を伝達について

南　京　6月8日後発
本　省　6月8日後着

第六二二號(極祕)

有吉公使ヨリ左ノ通

南京發閣下宛電報第三六八號ニ關シ

八日催サルル外交部新築廳舍落成祝宴參列旁本使七日來寧同日汪兆銘ト會見セルカ先ツ本使ノ歸任ニ關シ挨拶ヲ交換シ次テ別電第六二三(見当ラズ)號ノ通リ謝意ヲ述ヘタル後本使ヨリ今回歸朝中ノ印象トシテ日本ノ朝野カ兩國ノ國交ニ多大ノ關心ヲ有シ居ルコト特ニ貴官カ國際ノ大勢ニ鑑ミ兩國ノ和親提携ヲ熱心ニ希望セラレ居ルコト等然ル可ク說示シタルニ汪ハ自分モ至極同感ナル旨答ヘタルカ次テ本使ハ冒頭電五ノ點ニ言及シ今回歸朝ノ際貴意ノ存スル所ヲ委細外相ニ報告シタルカ我方ニ於テハ(一)ノ點即チ兩國カ共存共榮ノ方針ニテ進ムコトハ素ヨリ異存無ク至極同感ナリ又(二)ノ點滿洲問題ノ點ハ日本ノ立場トシテ滿洲國ノ存在ナル既成ノ事實ニ變更ヲ加フルカ如キコトハ全然考フル餘地無キコト前回既ニ御話シタル通ニテ從テ獨立國タル滿洲國ニ關シ第三者タル貴國トノ間ニ之カ解決云々等交渉スル譯ニ行カサルコトハ貴下ニ於テモ自ラ了解セラルルコトト考フル次第ナルカ滿洲國ノ存在事實ニ觸レス即チ所謂暗礁ヲ其ノ儘ニシテ日支兩國ニ於テ誠意和平ノ方針ヲ以テ極力空氣ノ緩和ニ努メ協力提携シテ船ヲ通行セシムル樣努力スルコトニ對シテハ我方モ異存ナク前回ノ御話ハ此ノ趣旨ニ於テ贊成スルニ吝ナラスト述ヘタルニ汪ハ貴公使カ卑見ヲ篤ト外相ニ傳達セラレ其ノ結果外相カ卑見ニ對シ或ル程度迄贊意ヲ表セラレタルハ感謝ニ堪ヘス自分ハ外相ノ平和的方針ニ對シ多大ノ敬意ヲ表スル旨答ヘタリ

北平ヘ轉電シ、支ヘ轉報セリ

20　昭和9年6月27日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

有吉公使との会見における両国関係改善の必要とその実現は双方共同の責任であるとの蔣介石見解について

南　京　6月27日後発
本　省　6月27日後着

第七三二號

有吉公使ヨリ左ノ通

汪兆銘ト會見ノ爲本使二十六日來寧セルカ着後間モ無ク突然唐有壬ヨリ電話ニテ蔣介石トノ會見方慫慂シ來リタルニ付（何等カ蔣ノ意ヲ受ケタルヤニ認メラルル筋アリ同日午後汪ト會見ノ際汪ハ蔣カ杭州ヘ向ケ十時出發ノ豫定ナリシヲ本會見ノ爲三十分出發ヲ延ハセル次第ナリト語リ居タリ）承諾ヲ與ヘ午前十時有野帶同軍官學校内ノ蔣ノ官舍ニ同人ヲ訪問セリ

一、先ツ相互ニ久潤（闊カ）ヲ舒シタル後本使ヨリ着任以來何カト行違ニテ會見ノ機ヲ得サリシカ今日偶然其ノ機ヲ得タルヲ喜フ旨挨拶シタルニ蔣ハ自分モ豫々御目ニ掛リ度ク希望シ居タルカ實ハ貴公使カ今朝御來京ノコトハ全ク知ラサリシ處先刻其ノ旨傳聞シ茲ニ俄ニ會見ノ機ヲ得タルコト誠ニ欣幸ニ堪ヘスト應シ次テ蔣ハ先般ノ本使ノ歸朝ニ言及シ齋藤首相ヤ廣田外相ハ御健康ナリヤト尋ネタルニ付本使ヨリ兩閣下トモ至極御健在ナル旨答ヘ

二、更ニ本使ハ先般歸朝中ノ印象トシテ最近日本朝野各方面トモ日支兩國ノ關係ニ對シ多大ノ關心ヲ有シ兩國ノ邦交改善ニ對シ極メテ熱心ナル希望ヲ有シ居ル旨ヲ告ケタルニ蔣ハ右ハ同感ニテ支那側ニ於テモ亦同樣ノ關心ト希望ト有シ居レリト答ヘタルカ

三、次テ本使ヨリ最近數年來兩國間ニハ種々不幸ナル事件發生シタルモ既ニ過去ノコトトナリ此ノ間貴下カ常ニ兩國ノ關係調整ニ注意セラレ一面貴國當局ノ努力ニ依リ近來事態カ漸次良好ニ赴キツツアルハ喜ハシキコトナルカ尚此ノ上トモ相互ニ理解ヲ增進シ兩國提携ノ域ニ達セシメンコト希望ニ堪ヘスト述ヘタルニ蔣ハ同感ノ意ヲ表シ自分モ速ニ兩國事態改善ノ必要アルヲ認メ居リ之カ實現ハ双方共努力ス可キ共同ノ責任ナリト認メ居レリト答ヘ

四、本使ヨリ最近剿匪事業モ極順調ニ進捗シ居ル由聞及ヒ居ル處本使ハ貴下カ速ニ本事業ヲ完成セラレ延ヒテ貴國各地ノ治安カ速ニ恢復セラレンコトヲ切望シ居レリ何トナレハ其ノ結果ハ兩國ノ國交增進ニ利益アルト同時ニ東亞ノ平和ニ寄與スル所大ナル可ク延ヒテハ世界ノ平和ニ貢獻スルモノアルヘケレハナリトノ趣旨ヲ述ヘタルニ蔣ハ謝意ヲ表シ尚同感ノ旨答ヘタリ

五、最後ニ本使ハ序ヲ以テ關稅率問題ニ言及シ本問題ニ對スル我方ノ關心及之カ公平ナル改正カ兩國經濟提携ノ重大要件タル點等ヲ簡單ニ指摘シ本使（件カ）ニ付テハ汪院長等ニ於テ從來御盡力中ナルカ更ニ貴下ヨリモ關係當局ニ對シ口添ヲ求ムル旨述ヘタルニ蔣ハ快ク之ヲ承諾シ早速當局者ニ對シ注意シ置ク可キ旨答ヘタリ

尚右ノ外蔣ハ黃郛、蔣作賓等ノ噂ヲ爲シタルニ付本使ヨリ黃ノ速ニ歸北センコトヲ希望シ居ル旨述ヘ又蔣ハ更ニ面會ノ機ヲ得ユツクリ御話シ度シト挨拶シ以上約三十分ニテ會談ヲ了セリ

尚蔣ハ即時支那飛行機ニテ杭州ニ赴ク由語リ居タリ

右會見ニ對シ當方ニテハ新聞記者ニ對シ蔣ハ豫テヨリ本使トノ會見ヲ希望シ居リタル次第ニテ偶然本日會見シ挨拶ヲ交換セル旨發表シ置ケルニ付右御含ニテ御取扱相成度シ

支、北平ヘ轉電セリ

21　昭和9年8月18日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

盧山において中国政府首脳により協議決定された対日方針などに関し唐有壬内話について

南　京　8月18日後発
本　省　8月18日後着

第八六四號

往電第八六二號ニ關シ

十八日唐有壬ハ極秘ノ含ヲ以テ本官ニ對シ大要左ノ如ク内話セリ

一、西南文治派殊ニ劉蘆隱等カ先頭ニ立チ五全大會開催反對若ハ不贊成ノ氣勢ヲ擧ケ居ル模樣ニテ中央ハ實力派ニ對シ文治派ニ雷同シテ内紛ヲ激化スルノ不可ナル所以ヲ說ク共ニ何等カ中央ニ註文アレハ申出ツヘキ旨電報スル

ニ決シタル處實力派ハ大体中央ノ意向ニ副フヘキ旨内示シ越セルヲ以テ文治派カ何ヲ云フモ取リ上ケサルニ決定セリ但シ之カ爲五全大會ヲ多少遲ラスコトトハナルヘキモ本年中ニハ開催ノコトニ申合セタリ

三、外交陣容整備ノ爲先ツ顔惠慶ニ早急歸任ヲ促ス方針ナリシ處豫メ同人ヨリ歸任拒絶ノ申出アリ又顧維鈞ハ五全大會前後ナラテハ歸任セサル意向ナルヲ以テ郭泰祺ヲシテ歐州方面ノ形勢觀測ニ當ラシムルコトトセリ又專任外交部長設置ノ爲汪兆銘ヨリ黄郛ニ引受方申出テタル處同人ノ固辭ニ會ヘル爲當分現狀ニテ進ムコトトナレリ一方河北問題モ成ルヘク外交官ノ手ニテ處理シタシトノ意見出テタルモ同問題ハ今トナリテハ戰區ヲ如何ニ處理スヘキヤノ内政問題ニ引懸リ居ル實狀ナルヲ顧ミ從來通リ黄郛ニ一任スルコトトナレリ黄郛ニ全權ヲ與ヘタル譯ニハ非サルモ蔣介石汪兆銘ヨリ更ニ改メテ歸北ヲ希望セルコト自体カ中央ノ同人ニ對スル一段ノ信任ヲ意味スルモノト見ラルヘシ

三、對日方針ニ付テハ昨年九月ノ廬山會議ニ於ケル決定ニ則リ（編注）（客年支發貴大臣宛電報第五〇八號參照）日本トノ關係ヲ漸次良化セシムルコトヲ基本トスルニ決セリ（日蘇開戰避ケ難シトノ情報アル處萬一兩國カ干戈ヲ交フル際ハ支那ハ日本ニ對シ好意的態度ヲ執ルヘキ旨申合セタリ（ママカ）

四、汪歸寧後中政會議等ニテ右ノ如キ結果ノ概要ヲ報告シタルモ左シタル議論ナカリシヲ以テ自分ハ其ノ間ノ空氣ヲ黄郛ニ傳フル爲三四日中ニハ廬山ニ赴キ月末歸寧ノ筈ナルカ黄郛ハ二十五、六日頃迄ニ當地ニ來リ直ニ北上ノ筈ナリ

公使、北平、滿、天津ヘ轉電セリ

編注　『日本外交文書』昭和期Ⅱ第一部第二巻第38文書。

22　昭和9年9月3日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛（電報）

日ソ開戦の場合の中国側対処方針など中国主要実業家による懇談会の内容に関し唐有壬内話について

上海　9月3日後発
本省　9月3日後着

第七二五號

九月一日唐有壬カ本使來訪ノ節内話スル所御參考迄左ノ通[1]

（一、二及三ハ發表セサル樣致度シ）

一、八月中旬ヨリ下旬ニ亘ル廬山ニ於ケル實業家、銀行家、教育家等ノ會合ハ別段會議ト云フ程ノモノニアラス一種ノ懇談會式ノモノニテ夫々關係問題ニ付諮問ニ對スル意見ノ交換行ハレタルカ其ノ中主ナル事項ハ剿匪區域ノ善後問題ニシテ收復區域ニ對スル

(一)復興救濟ノ爲ノ投資

(二)教育方針

(三)交通ノ維持改良

等ノ問題ナリ

二、右ノ外一般對外關係及華北問題等關係者間ニ懇談セラレタルカ其ノ際日蘇ノ關係カ話題ニ上リ兩國カ一旦開戰スル場合

(一)支那ハ蘇聯ニ加擔シテ滿洲ヲ恢復スヘシト主張スルモノアリ

(二)日本ヲ援助シ其ノ代償トシテ滿洲ノ回收ヲ求ムヘシト主張スルモノアリ前者ハ日本ニ加擔スルモ滿洲回收ノ見込ナキヲ說キ後者ハ(一)ニ依レハ支那ノ要地ハ日本側ニ蹂躙セラレ悲慘ナル結果ヲ來スヘク又假令蘇側ノ勝利ニ歸スルモ新疆（編カ）其ノ他邊境地方ハ蘇聯ニ占領セラレ將來國内赤化ハ更ニ擴大スヘシト爲シ相當議論アリタルカ一方國内ノ共匪ハ四川ノ分モ合スレハ（次項御參照）之カ討伐ニハ尙長日月ヲ要スル現狀ニテ支那ノ急務ハ剿匪ニアリ之カ濟マサル間ハ外部ニ對應スル餘裕ナシトノ說出テ結局支那ハ中立而モ地理的其ノ他ノ關係ヨリ日本ニ好意アル中立ヲ守ルカ賢明ナリトノ意見多數ヲ占メタリ

三、[3]江西南部ノ共產區ハ同省内ハ僅ニ四縣ナルモ福建ヘ進出ノ分五縣合計九縣ニ亘リ尙相當ノ勢力ヲ維持シ居ル爲之カ討伐ハ年内ニ完成スル望無キ一方同區域ノ共匪ハ目下極力四川ニ向ケ脫出セント企テツツアリ其ノ一部ハ既ニ何鍵軍及廣東軍ノ防備區域ノ中間ヲ突破シ湖南ノ宜章ヲ經テ永州ニ達シ居レルカ之ニ對シ廣西軍ハ永州ノ西ヨリ湖南軍（二箇師）ハ北ヨリ之ヲ包圍シ其ノ前進ヲ喰止メ居レリ

他方四川ノ共匪ハ劉湘ノ討伐誠意無キ爲勢力著シク擴大シ居リ現狀ニテハ江西方面ヨリモ事態重大ナリ尙今回劉

ノ辭職申出ハ右討伐失敗ニ關聯シ自分ノ地位ヲ「テスト」スル意味ニ外ナラス

四、[4](本使ノ質問ニ對シ)最近宋子文ノ財政部長復活說ハ或一部ノ方面ニテ噂ニ上リタルカ右ハ目下各省トモ農村救濟等ノ爲公債ノ發行方ヲ要求シ居ルニ對シ孔祥熙カ之ヲ容易ニ許可セサルニ依リ生シタル不滿ニ關聯セル單ナル噂ニ過キスシテ何等問題ニ上リ居ル次第ニアラス

五、(更ニ本使ノ問ニ對シ)陳儀ト蔣鼎文トノ間ハ特ニ良好ナリトハ認メサルモ別段不和確執等ノ事實無シ唯福建ノ財政窮乏ノ爲陳カ蔣ノ軍費要求ニ應シ得サル點アル爲何等噂ヲ生シタルモノナルヘシ

六、蔣介石ノ病氣ハ胃病ニシテ注射ニ依リ其ノ都度苦痛ヲ和ケ一時ハ可成リ衰弱シタルモ既ニ大体恢復セリ

北平、天津、濟南、青島、南京、九江、漢口、福州、廣東、厦門、滿ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

23　昭和9年9月28日　在中国若杉公使館一等書記官より広田外務大臣宛(電報)

蔣介石の対日協調方針は不変の旨黄郛言明について

北平　9月28日後発
本省　9月28日後着

第三六八號(極秘扱)

二[1]十六日黄郛來訪ノ際黄及本官限リニテ二時間餘ニ亘リ忌憚ナキ意見交換ヲ行ヒタルカ其ノ要點左ノ如シ外間ニ漏レサル樣御含ヲ請フ

一、黄ハ民國初年蔣介石及陳其美ト共ニ義兄弟ノ契ヲ結ヒ革命ニ奔走シタル以來今日ニ至ル自己ノ政治的體驗殊ニ華盛頓會議並ニ北平關稅會議ニ於テ常ニ東亞ノ大局ニ立脚シテ奔走セル苦心及蔣介石ニ對シテハ常ニ外交顧問格ナル緊密ノ關係ヲ縷述シ又蔣カ先年國民政府主席ヲ辭シ日本ノ對支政策ノ眞相ヲ確ムル爲渡日シ田中總理ト會見歸國セル經緯モ主トシテ黄ノ助言ニ基ク處偶々濟南事件ニ依リ黄ノ外交部長辭任等ノ爲蔣介石ノ對日方針モ遂ニ一頓挫ヲ來シ更ニ滿洲事變ノ爲激發サレタル國民的感情ノ爲蔣ト雖施スニ途ナキ始末トナリタルカ遂ニ昨年北支政局ノ收拾ニ乘出スニ至リタル經過ヲ詳細說明シタルニ付本官ヨリ黄ノ北上延引ノ理由ヲ質シタル處

黄[2]ハ自分ノ對日方針ニハ支那側ニ於テ相當反對アルヲ以テ蔣介石ノ眞意ヲ再應確ムルト共ニ國民政府方面ノ空氣ヲ轉向スルノ必要ヲ感シ數箇月間種々ノ方法ヲ以テ政府要人新聞界實業界方面ノ理解ヲ求メ大体見込付キ(西南ハ自分ノ關知スル所ニ非ス)又蔣トモ數次腹藏ナキ會談ノ結果蔣ヨリ北支ニ於ケル自分(黄)ノ行動ニ付テハ蔣ニ於テ一切責任ヲ負フ故南京政府部内ノ向背等ヲ顧慮セス斷然歸任スヘシトノ激勵ヲ受ケタルヲ以テ大イニ勇氣ヲ起シ再歸任ノ決心ヲ爲シタル次第ナリト語レリ

二、依テ本官ハ黄ニ對シ我方根本方針ハ内外種々ノ宣傳ニ拘ラス終始一貫日支提携シテ東亞ノ和平ト幸福ヲ確保スルニアリテ本官ノ任務モ亦折角北支收拾ノ重任ニ當ラルル貴下(黄)ヲ支持シ貴下ノ大業ヲ達成スル爲ニハ必要ニ應シ精神的及物質的援助ヲモ辭セス誠心誠意北支ヲ以テ日滿支協調ノ楔トナスヘキ建設的施設ニ付貴下ト協力セントスルニアル旨ヲ告ケ尚今後事ヲ共ニスル上ニ於テ貴下ノ參考ノ爲注意ヲ喚起シ置キ度シトテ

(一)[3]我カ國民ノ一部ニハ國民黨ヲ背景トスル南京政府ヲ支配スル蔣介石ノ日本ニ對スル眞意奈邊ニアルヤヲ疑フ者アリ從テ蔣ト因緣深キ貴下ノ北支ニ於ケル實力如何ニ付不安ヲ感スル向鮮カラサルコト

(二)貴下ノ政權下ナル河北省ニ於テハ今尚反日的東北系官憲ノ勢力牢固トシテ拔クヘカラサルモノアリテ貴下ノ施設ヲ妨クルカ如キ弊アル點ヲ指摘シ右ニ對スル所見如何ト尋ネタル處黄ハ蔣ノ眞意日本側ニ明カナラサルハ最近蔣カ日本人ノ來訪ヲ一切斷リ居ルニモ依ルヘケレトモ之ニハ種々ノ理由アリ卽チ先年蔣カ自分(黄)ノ勸ニ依リ日本ノ眞意ヲ確カムル爲下野シテ張群ト共ニ渡日シ田中總理ト了解ヲ遂ケ歸國ノ上復職シタルカ間モ無ク濟南事件ノ爲自分迄モ外交部長ヲ辭セサルヲ得サル破目ニ陷リ一大打擊ヲ受ケタル以來蔣ニ於テモ日本ノ對支眞意奈邊ニ在ルヤヲ疑フニ至リ殊ニ滿洲事變以後荒木陸相ノ使者ト自稱スル日人數名ニ面會セルモ事每ニ行違ヘルヲ以テ爾來日本側ニ於テハ日支問題ニ付何人カ責任ヲ以テ相談シ得ルヤ見當付カス當惑シ居ル有樣ニテ南昌ニ於テモ一切日本人トノ面會ヲ避ケ居ルハ之カ爲ナルカ

蔣[4]カ屢自分(黄)ニ明言セル處ハ感情ニ於テハ日本ヲ憎ムハ已ムヲ得サルモ國策ト感情トハ混同スヘカラス國策ノ

根本ハ利害ニシテ日支兩國ハ利害一致ス若シ日蘇開戰ストスルモ日本カ敗北セハ支那ノ西半分ハ當然蘇ニ依リ赤化セラルルニ至ルヘク東亞ニ於テ日本ノ勢力若シ失墜セハ支那ハ到底共產化セラルルカ共管ニ歸スルノ外無カルヘク而モ蔣トシテハ曩ニ「ソヴイエト」政治及軍事顧問等ヲ追出シ蘇支國交迄モ斷絶シ今又專ラ共產黨ノ征伐ニ沒頭シ居リ餘リニ反蘇政策ニ深入リシタル爲今更蘇聯邦ト握手シ得サル行懸トナリ居ルヲ以テ結局東亞ノ大局上日本ト接近スルノ外途無キヲ覺悟シ居リ自分(黃)ヲ北支ニ歸任セシメタルモ其ノ爲ナリ現ニ新疆ニ於テ「ソヴイエト」カ頻リニ勢力ヲ扶植シツツアルニ對シテモ何トカ之ヲ牽制セン爲曩ニ參謀次長黃慕松ヲ派遣シ盛世才ノ監視ニ當ラシメタルモ蘇ノ勢力强ク却テ盛世才ニ監禁同樣ノ取扱ヲ受ケ辛シテ黃次長ヲ南京ニ引取リ目下南京政府ヨリハ隨時數名ノ密偵ヲ新疆ニ往來セシメ狀況視察ヲナサシメ居ル始末ニテ之トテモ四川方面ヨリノ共產黨カ新疆トノ連絡ヲ計ルニ對スル對抗策ニ外ナラス尙新疆ニ於テ盛世才カ蘇ニ加擔シ居レル如ク噂サルルハ集ハ新疆ニハ滿洲事件後東北ヨリ馬占山及鮮炳(蘇カ)文ノ殘黨カ流レ込ミタル結果

彼等多數ノ軍隊カ新疆ニ潛入スル爲ニハ同方面ノ蘇側官民ノ協力ヲ得ル外致方無キ爲自然蘇ニ接近シ其ノ庇護ノ下ニ新疆ニ落着キタル次第ナルヲ以テ盛世才勢力下ニアル新疆カ漸次蘇化スルハ已ムヲ得サル事情ニテ南京政府モ頻リニ之ヲ憂慮シ居レリト語レリ[5]

三、依テ本官ハ黃ニ對シ獨逸ヨリノ軍事顧問招聘又ハ米伊等ヨリ軍器購入ノ事實ニ照シ蔣カ終局ノ目的ハ國內ノ統一ヲ完成シタル上ハ日本ニ對シ復讐的ニ反撥又ハ挑戰セントスルニ非スヤト反問シ又國民政府ノ幹部ニハ孫科宋子文等ノ歐米派ノ反日運動モ少カラサル處果シテ蔣ノ對日方策ニ支障トナラサルヤヲ質シタルニ對シ黃ハ前述ノ如ク蔣カ對日大方針ヲ決定シ居ル以上蔣ニ於テ其ノ責ニ任スヘキヲ以テ蔣ノ職ニ在ル間ハ宋子文ハ絶對ニ勢力無ク孫科ニ至リテハ官僚(マヽ)ニ汪兆銘ノ後釜ヲ狙ヒ行政院長タラン事ヲ欲シ居ルヲ以テ或ハ舊來ノ態度ヲ飜シ全然自分(黃)等ノ主張ニ傾クニ至ルヤモ計ラレスト述ヘ[6]

又支那軍部內ニ於テ獨逸人ノ顧問數多アルハ事實ナルカ要スル(二)支那軍隊カ未熟ニシテ外國將校ノ指導ヲ要スル處嘗テ露國將校ヲ逐出シタル經緯モアリ然レハトテ英米ノ將校ハ日本ノ氣受モ宜シカラサルヘク結局日本ニ於テ特別ノ反感ヲ有セサル獨逸人ヲ選ヒタルニ過キスシテ之ヲ以テ對日作戰ノ用具トスル意嚮毛頭ナキハ諒トセラレタク其ノ他ノ外國ヨリ武器ノ輸入ノ如キモ單ニ目前ノ必要ニ止リ支那側ノ是位ノ僅カ許リノ不完全ナル軍備ニ對シ日本カ之ヲ懸念スルカ如キハ餘リニモ神經過敏ナラスヤト苦笑セリ

四、本官ヨリ顧維鈞及顏惠慶カ佛蘇ヨリ歸國後蔣介石ト會見セル由ナルカ如何ナル打合アリタルヤト問ヒタルニ對シ黃ハ右兩人ヨリ南昌ニ在ル蔣ニ會見ヲ申込ミタルニ對シ蔣ハ別ニ取急キ兩人ニ面會ノ用事モナキヲ以テ多忙ニ付面會シ難シト返電シタルカ其ノ後一箇月後ニ至リ蔣ハ黃ノ進言ニ依リ兩人ト會見スルコトトナリ兩人ヲ盧(廬カ)山ニ招キタルカ右會見ノ際顏ハ蘇國ト接近ノ必要及新疆方面ニ於テモ相當露國トノ接觸ヲ慫慂シ顧ハ聯盟トノ協調必要論ヲ進言セルモ蔣介石ハ斷乎トシテ兩人ニ告クルニ「大局ハ既ニ定マリ居ルヲ以テ此ノ際小細工ハ無用ナリ」ト喝破シタル處

顏[7]ハ老齡不健康ヲ口實トシテ辭意ヲ漏シタルモ蔣ハ之ヲ慰留シテ休養ヲ勸メ顏(顧カ)ニ對シテハ別ニ歸任ヲモ勸メス當分休暇ヲ與ヘタルヲ以テ兩人トモ何等得ル所無クシテ別レタル次第ナルカ兩人ノ歸任スルヤ否ヤハ未定ニシテ顏ノ今回歸國セル目的ハ秘カニ內政上ノ觀察ニアルカ如ク何等カ國內ニ於テ機會ヲ窺ヒ居ルヤニモ察セラルルト語レリ

五、黃ハ本官ニ對シ河北省ノ刷新ニ付テハ種々考慮シ居ルモ滿洲事變後未タ短時日ノ今日急速ニハ運ヒ兼ヌルモ時期ヲ待チテ(五全大會後ノ意ト察セラル)着々實行スヘク現ニ戰區整理委員會組織ノ外河北省ノ人事異動ニ付テモ考慮中ナルカ何分人材ニ乏シク何人ヲ以テスルモ行政上ノ訓練足ラサル缺點アルヲ以テ不取敢地方行政官ノ訓練所ヲ設ケ縣長公安局長其ノ他ノ行政官ヲ交替招集シテ訓練ヲ施シ自分(黃)ノ方針ヲモ會得セシメ漸次事實上ニ於ケル治績ヲ擧ケルニ努ムル考ニテ目下其ノ立案中ニテ又關東軍トノ懸案中通車及設關ハ既ニ成立セルヲ以テ通郵モ近々商議ヲ開始ス可ク一先之等懸案ヲ一掃シタル上ニテ徐々ニ建設事業ニ着手スル考ナリト云ヘリ

支、南京、天津、滿ヘ轉電セリ

24　昭和9年11月2日　在中国若杉公使館一等書記官より広田外務大臣宛(電報)

中国側の日中関係改善努力に対する日本側態度に蔣介石不満を表明し両国理解増進のため幣原元外相の訪中を私的に提議について

北平　11月2日後発
本省　11月2日後着

第四〇三號(極秘扱)

蔣[1]介石ハ來平以來外交團方面ノ訪問ヲモ一切斷ハリ漸ク昨一日黃郛ノ名ヲ以テ外交團其ノ他重ナル外人一般ノ茶會ヲ催シタルニ過キサル處黃郛ノ斡旋ニ依リ一切會見ノ事實ヲモ外間ニ發表セサル約束ノ下ニ本二日本官蔣介石ト會見黃郛ノ通譯ニテ時間ノ關係上枝葉ノ問題ヲ避ケ根本政策ノミニ關シ意見交換ヲ爲シタルカ其ノ要點左ノ如シ(右約束及他國ノ外交團員トノ振合モアルニ付一切外間ニ漏レサル樣御配慮ヲ請フ)

一、本官ヨリ多年歐米在勤中ノ體驗ニ基キ東南(西カ)兩洋カ根本ニ於テ人種ト文明ヲ異ニシ結局東亞ノコトハ東亞ノ諸國卽チ日支兩國共同ノ責任ヲ以テ處理スルノ外無キ結論ヲ得タル次第ヲ述ヘ我國ノ國際聯盟脫退ノ根本觀念モ亦之ニ外ナラサル處若シ日支關係ヲ從來ノ如ク兩國ノ國民的感情ノ赴ク儘ニ放任シ置ク時ハ或ハ佛獨ノ如ク永久親善ノ望無キ關係ニ陷ルヤモ計ラレサルヲ惧ル唯幸ニシテ貴下(蔣)及黃郛ノ現ニ孰(執カ)リツツアル對日緩和ノ方針ニ依リ右ノ如キ危險ヲ免ルルヲ得ンコトヲ望ム次第ナルカ更ニ此ノ方針ヲ南北ヲ通シ全國的ニ今少シク徹底セシメラルル方策無キヤト問ヒタル處蔣ハ貴見全然同感ニシテ現ニ九一八事變ニ依リ非常ノ事態ニ際シテモ國內激烈ナル反對アルニ拘ラス難キヲ忍ンテ對日緩和策ヲ講シツツアルハ正ニ之カ爲ナルカ惜ムラクハ日本側ニ於テ往々其ノ說ク處ヲ異ニシ我等(蔣)ヲシテ歸趨ニ迷ハシムルコト尠カラサルハ遺憾ナリト答ヘタルヲ以テ

[2]本官ハ實ハ我方ノ根本方針ハ朝野共日支提携ニアルモ國民ノ一部殊ニ軍部ノ一部ニ於テハ支那カ果シテ統一ノ可能性アリヤ又貴下(蔣)カ之ヲ統一シタル曉ニ於テ果シテ日本ト提携シテ東亞(脫)ノ責ニ任スルヤ否ヤニ付疑念ヲ

懷ク者鮮カラス從テ出先官憲ニ於テ往々ニシテ右國策ト矛盾スルカ如キ行動無キニシモ非サル次第ヲ率直ニ述ヘタル處蔣ハ自己(己カ)ノ眞意日本ニ徹底セサルハ遺憾ニシテ日支双方共今少シク理解ヲ增進シ相互ニ努力スルノ外ナシト言ヘルニ付本官ハ右理解增進ノ爲日支兩國ヨリ然ルヘキ大人物ヲ派遣シ忌憚ナキ意見ノ疎通ヲ計ル考無キヤト尋ネタル處蔣ハ日支現在ノ狀態ニ於テハ廣田大臣又ハ自分ノ如キ責任ノ地位ニ在ル者ノ往來スルコト困難ナルヘキ處若シ自分カ個人トシテノ思付ヲ述フレハ(全然個人的意見ニシテ支那政府ノ意響ヲ表示スル次第ニ非サル旨ヲ特ニ留保セリ)日本ニ於ケル複雜ナル關係モアリ之ヲ許スヤ否ヤハ別問題ナルカ若シ幣原男爵カ見物旁支那訪問旅行ヲ爲スコトトモナラハ國民ハ同男爵ニ對シ好感ヲ有スルヲ以テ必ス好結果ヲ齎スヘシト內話セルニ付本官モ此ノ點ハ興味アル意見トシテ個人的ニ攻究スヘキ旨ヲ述ヘ置ケリ

[3]三、本官ヨリ日本ハ對支關係ニ於テハ親善提携ノ方針ニ一定シ居ルモ對蘇關係ニ於テハ和戰兩樣ノ意見相半スル實情ナルカ之カ爲特ニ外蒙古及新彊(疆カ)方面ニ於ケル蘇聯邦ノ勢力伸張ニ對シテハ深甚ノ關心ヲ有スル次第ナルカ此ノ方面ニ對スル貴國ノ措置如何ト尋ネタル處蔣ハ新彊(疆カ)方面ハ素ヨリ中國ノ領土內ナルヲ以テ中國ニ於テ責任ヲ以テ之カ處置ヲ爲スヘキハ勿論ナルモ自分(蔣)ノ意見ニ依レハ新彊(疆カ)方面ノ形勢ハ中國ノミナラス世界共通ノ問題ニシテ一旦同方面赤化スル場合ニハ其ノ邊境諸國ハ重大ナル影響ヲ蒙ルヘク自分トシテハ同地方ヲ成ルヘク蘇聯ノ勢力ヨリ引離シ當方ニ引付ケント種々努力中ナルモ日支(關係)多端ノ爲ニ時間ト精力ヲ消耗シテ其ノ餘力尠キト日本官憲カ中國政府ノ爲ス所ニ信賴セサル爲(昨年秋日本參謀本部ノ一將校カ新彊(疆カ)視察ニ付南京政府ノ許可ヲ取付ケントシタル際自分ハ之ニ反對シタルニ拘ラス行政院ニ於テ之ヲ許可シタルカ遂ニ蘇側ニ於テ日支共同シテ策動スルモノト疑ヒ遂ニ同將校ノ入彊(疆カ)ヲ阻止シタルカ如キモ日本カ自分等ノ同方面ニ對スル努力ヲ信用セサルニ基クモノナリ)折角自分等ノ前記ノ努力迄モ阻害セラルルニ至レル次第ナリト語レリ

[4]三、本官ヨリ西南派カ排日政綱ヲ表明シテ南京政府ニ反抗セントスルニ對シ蔣ニシテ若シ眞ニ支那ノ統一ヲ計リ排日

緩和ノ政策ヲ採ラントセハ近々數萬ニ過キサル西南軍ヲ蔣ノ武力ヲ以テ打倒スル決心ナキヤト直言シタル處蔣ハ西南方面ハ其ノ内平和的ニ統一スルヲ得ヘシト確信アル面持ニテ明言シ其ノ武力解決ヲ試ミサル所以ハ却テ西南派ノ兵力カ微弱ナルカ爲ニシテ弱者ハ之ヲ討タスシテ牽制スル方得策トスル旨ヲ語レリ

四、本官ヨリ現ニ蔣カ數年間奮鬪シツツアル共産軍ノ討伐ハ結局成功スヘキヤ否ヤヲ尋ネタル處蔣ハ江西方面ノ共匪ハ遠カラスシテ掃蕩セラルヘク然ル上ハ中央軍ニ餘力ヲ生スルヲ以テ之ヲ以テ四川方面ノ討伐ニ主力ヲ注キ結局之ヲ殲滅スヘシト確信アル口調ニテ語レリ終リニ臨ミ蔣ハ閣下ニ對シ然ルヘク好意ヲ傳達方依頼セリ

支、南京、天津、漢口、廣東、滿へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

25　昭和9年11月21日　在漢口清水総領事より広田外務大臣宛（電報）

共産軍の四川省遁走をめぐる蔣介石の軍事的戦略に関する情報について

漢　口　11月21日後発
本　省　11月21日後着

第二九三號

長沙發本官宛電報

第五二號

大臣へ轉電アリタシ

第四八號

蔣介石直系分子ニシテ當地藍衣社ヲ牛耳レル四路軍參議羅鍼（菸酒税局長）カ過日本官ニ極秘ノ含ミトシテ内話セル所ニ依レハ蔣介石ハ四川ニ向テ移動ヲ開始セル江西紅軍主力ヲ一擧ニ殲滅スルヨリモ寧ロ之ニ或ル程度ノ損傷ヲ加フルニ止メテ其ノ四川遁竄ヲ許シタル上江西及河南方面ニ於ケル蔣直系部隊ヲ四川ニ送リ四川ノ武力統一及雜色軍ヲ以テ武力解決ヲ計ラントシ居レリト述ヘ更ニ蔣トシテハ西竄紅軍ノ討伐乃至對西南問題ヨリモ四川問題ノ解決ヲ急キ居リ同省財源ノ獲得後徐ロニ四川ノ山間僻地ニ於ケル新舊共産軍ノ討伐ヲ開始スル腹ナリト語レルカ約一箇月前之ヲ聞込ミタル當時蔣介石ハ薛岳（薛カ）等ノ率ユル八箇師ヲ江西ヨリ湖南ニ向ハシメ飛行機「タンク」等ヲ用意シテ積極的討伐ノ手配ヲ備ヘ居リ且當地軍部ニテモ紅軍ヲ湘南ニ於テ包圍殲滅セントノ計畫ナル旨公表シ着々準備中ナリシ關係モアリ當時ハ右情報モ餘リ氣ニ止メサリシ處（當時當地要人中ニモ蔣介石ハ共産軍ノ四川入リ防止ノ必要ヲ高調シナカラ其ノ實四川問題解決ノ爲紅軍ノ西竄ヲ利用シツツアリト惡口セル者アリタリ）最近ニ至リ紅軍主力ハ往電第四七號ノ通湖南内部地方ヲ突破セントシ其ノ先頭部隊ハ既ニ廣西境ニ達シ將ニ蕭克匪軍ト同一經路ヲ辿リテ貴州四川境ニ入ラントシ居ル現狀ナルニ拘ラス湖南占領諸部隊ヲ合セ約十五師ノ外ニ約十箇師ノ中央軍モ之カ討伐ニ參加シ乍ラ僅カ八萬許リノ西竄紅軍ノ進路ヲ喰止ムルヲ得サル現狀ニ顧ミルモ將又最近ニ於ケル左記蔣介石直系部隊ノ動向ト照シ合スモ右内話ニハ一脈ノ眞理ヲ見出シ得ルヤニ存セラル右聞込ミノ儘電報ス（出所極秘）因ニ蔣介石カ其ノ直系部隊タル胡宗南軍ヲ入川セシメタルハ右計畫ノ小手調ニシテ四川軍閥ノ剿匪振ヲ監視シ旁一般狀況ヲ調査セシムルニアリト認メラルル處現在湖南ニ於テモ極メテ最近李雲杰ノ二十三師（蔣直系）湖南ノ嘉禾ニ進出シ來リテ胡宗南軍ト同一ノ役割ヲ演シツツアリ其ノ他吳奇偉軍、夏斗寅軍二十八師、五十師等ノ直系部隊ハ既ニ湖南入ノ命ヲ受ケテ陸續動キ出シ居リ蔣部隊ノ入川モ茲ニ表面化シツツアルモノノ如ク一方何應欽ノ四川入込ミ説ニ次イテ劉湘ノ南京行ヲ見ルニ至レルハ蔣ノ四川乘取ノ前提トモ思料セラルルニ付右御參考迄

支、北平、南京、廣東、福州、厦門、青島、濟南、天津、九江、重慶へ轉電アリタシ

沙市、宜昌へ暗送セリ

26　昭和9年11月27日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛（電報）

青島および上海での中国駐在陸軍武官会合における討議内容ならびに公使館付武官などに対し中国側との接触振りにつき注意喚起について

上　海　11月27日後発
本　省　11月27日後着

第※八八六號（極秘）

一、(1)各地陸軍武官カ去ル十二日青島ニテ秘密ニ會合シタル趣ハ坂根總領事ヨリ電報セル趣ナルカ是等武官ハ上海ニ集マリ渡、高橋及在上海武官等ヲ加ヘテ十六日ヨリ數日間

會議ヲ開キ其ノ結果二十一日夜邦字紙ニ新聞發表(二十二日東京朝日其ノ他掲載ノ上海電ト同樣ニテ右ハ英漢字紙ニモ譯載サレタリ)ヲ爲シタルカ右ニ付本使及堀内カ鈴木武官及影佐ニ確メタル事情左ノ通リ

三、各地武官ハ各地ノ實情ニ關スル情報ヲ交換シ認識ヲ新ニシテ中央既定ノ對支方針(卽チ蔣介石及國民黨ノ排日方針ノ匡正ニ努メ其ノ匡正無キ限リ之ト協調セス壓力ヲ加ヘル)ノ實行ニ當ル爲會同シ之カ實行ノ具体策ニ付テモ意見ヲ交換シタルカ之カ實現ハ中央ヘノ經伺ヲ必要トシ差當リ北方ニ於テハ黃郛ニ對シ停戰協定附帶事項ノ急速實行ヲ迫リテ之ニ壓力ヲ加ヘ

(2)南方ニ於テハ急轉セル西南側ノ親日態度ヲ促進シ(其ノ方法ハ主トシテ日支間ノ經濟合作ナル由)之ニ依リ間接ニ蔣介石ノ態度ヲ改メシムル事並ニ右武官ノ方針ハ各方面ニテ接觸スル支那側要路ヨリ吹込ム事ニ申合セタル趣ナリ(今回ハ方針ヲ變更スル譯ニ非ストテ中央ハ特ニ派員ヲ見合セタル趣)尙前記新聞發表ハ支那側ニ於テ右日本側ノ方針カ最近緩ミ來リタルヤノ觀測ヲ爲シ居ル者アリト認メ(北平發閣下宛電報第四〇三號若杉ノ蔣介石ニ對スル說明ヲ問題ニシ居タルニ付堀内ヨリ充分說明セル趣ナリ)之カ是正ヲ目的トシタル趣ニテ其ノ外蔣介石及黃郛ニ對シテハ支那側要人ヲ通シ前記方針ヲ傳ヘ且軍部トシテハ武力ニ訴ヘテモ蔣介石ノ排日態度ヲ改メシムル覺悟アル旨ヲ附言セシメタル趣ノ確カナル聞込アリ

(3)右武官會議ニ付テハ當方ヨリ鈴木武官及影佐等ニ對シ前記方針ハ本使ニ於テモ從來常ニ實行ニ努メ居ル處ナルカ此ノ方針ヲ支那側ニ於テ右ノ如キ方法ニテ表示スルニハ豫メ當方ニ協議スルコトカ目的達成上極メテ必要ナル旨及青島ニ於ケルカ如ク不必要ニ支那側ノ疑惑ト不安ヲ招ク方法ニテ會合スルノ不可ナルコトヲ說示シ置ケリ

四、尙本件會合ニ關シ本使北上中若杉カ柴山ニ内密ニ聞込メル處ニ依レハ北支ヨリ參加セル武官ハ天津ニ於テ司令官及柴山ヲ交ヘテ會談ノ節滿洲國ヲ統監制トシ康德帝ヲ北平ニ遷ス案ヲ提唱シ柴山及司令官トモ之ニ反對シタル趣ナルカ當地ノ會合ニハ柴山ノ意見ヲ聞ク必要ナシトノ說多ク同人ノ參加ヲ忌避シタル旨參加者ノ一人ヨリ館員ニ内話セル趣ナリ

(本電部外秘ト致度シ)

27　昭和9年11月29日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛

大阪毎日新聞上海支局長の蔣介石との会見内容掲載の新聞記事送付について

公第五九六號　(12月4日接受)

昭和九年十一月二十九日

在中華民國

特命全權公使　有吉　明〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

蔣介石大毎上海支局長會見談記事報告ノ件

十一月二十八日ノ上海英漢字紙ハ田知花大阪毎日上海支局長ト蔣介石トノ會談ヲ報セル別添切抜(英漢各一種)ノ通ノ二十七日南京發中央通信ヲ掲載セリ右支那側報通振ハ對日對内的意義ヲ含ムヤニ認メラレ注意ニ値スト思料セラル何等御參考迄報告ス

本信寫送付先　北平　在滿大使

南京(附屬省略)

(別　添)

GEN. CHIANG'S VIEWS

FOR JAPAN

——

Against War: Wants Respect

and Confidence

——

DECLARES CHINA NOW

UNIFIED

Nanking, Nov. 27.

The correspondent of the "Osaka Mainichi Shimbon," Mr. Tachibana, granted an interview by General Chiang Kai-shek to-day, asked:—"The present attitude of China towards Japan appears to be one of continued resistance: it is said that in the coming crisis of, perhaps, 1935-6, when Japan may be hard pressed by international difficulties, China will seize the opportunity to oppose Japan. Is this true?"

Gen. Chiang.— It is natural that certain sections of

our people should feel this way. All who are cognizant of world trends, and particularly those in the Far East, however, are unanimous in their opposition to another world war. We all know that the happiness and prosperity of the Far East depends upon world peace. China, in common with other nations stands to benefit from world peace. It is self-evident that from the standpoint of China's own good she will not desire another disastrous world war. China and Japan are sister nations in the Far East and all their relationships one with another should be based on justice and good-will. Apart from mutual respect and confidence, there is no other stable foundation upon which to build international relationships.

The Manchurian Incident

Mr. Tachibana.—Following the Manchurian incident, has China's policy of close co-operation with the League of Nations and the Powers tended toward further complicating the Far Eastern situation?

Gen. Chiang.—Since China is a member of the League, it is only natural that she should observe all the articles of the League Covenant.

Mr. Tachibana:—Does the recent increase in military and economic influences of the Powers in China retard Sino-Japanese co-operation?

Gen. Chiang.—As far as I can see, America and Europe have not only refrained from extending their power in China, but are gradually relinquishing some of their special concessions.

Mr. Tachibana—What is the best possible solution to Sino-Japanese relationships?

Gen. Chiang:—There is only one fundamental solution to all Sino-Japanese problems, and that is the observance of mutual respect and confidence. The key to this situation is entirely in the hands of Japan.

The Naval Conference

Mr. Tachibana—Japan's aim at the London Naval Conference has been purely to ensure her independent position in the Far East. What is your opinion on this question?

Gen. Chiang.—I have not studied this question in detail, but my sincere desired for the London Naval Conference has been that such an agreement be reached as will bring lasting peace and happiness to a mankind.

Mr. Tachibana—Japan hopes that the present policy of the Kuomintang will not continue, but rather that Dr. Sun Yat-sen's pan-Asiatic programme should be the ruling principle. What is your opinion?

Gen. Chiang—The Kuomintang of to-day is the Kuomintang of Dr. Sun Yat-sen. It is not departing from the original principles of its renowned founder. I am sure no one will object to our late leader's pan-Asiatic doctrine of equality and mutual co-operation becoming a reality.

Internal Strife Ended

Gen. Chiang further said:—China is already unified. The Southwest presents no problem. I assure you that China's day of internal strife is over. The Kiangsi communist question has been successfully liquidated, but in other parts of the country there may still be slight disturbances by roving bands of communists. These will gradually be brought under control.

"China's position differs from that of Germany, Italy, and Turkey. Therefore there is no necessity for a dictator. As to the matter of the presidency, I have not time to even speculate upon such a question in my mind. There is room only for China as a nation and my responsibility toward her."

"The purpose of the New Life Movement is to perpetuate China's ancient virtues in such a way that our people will become modern minded progressive citizens."

Mr. Tachibana.—What is China's border policy?

Gen. Chiang.—All Chinese territories should be under the direct sovereignty of China. This is the unanimous opinion of our people.—Central News.

N. C. Daily News
28 Nov., 1934

28　昭和9年12月12日　在中国若杉公使館一等書記官より広田外務大臣宛(電報)

上海陸軍武官会合の内情および陸軍部内において蔣介石・若杉会談の内容が問題視されている旨報告について

付　記　十二月二十七日付、東亜局第一課作成「支那問題ニ關スル軍部トノ協議ノ件」

北　平　12月12日後発
本　省　12月12日後着

第四三〇號(部外絶對極秘)
公使閣下(發ヤカ)宛電報第八八六號ニ關シ

本官ノ聞知シ居ル所ニ依レハ上海武官會議(柴山武官ハ參加シ居ラス)ノ申合セ内容ハ冒頭電報所載ノ鈴木、影佐兩武官ノ説明ヨリモ一層積極的ノモノナリシ模様ニテ現ニ同會議ノ申合セヲトシテ(ママ)「國民政府ヲ打倒シ親日區域ヲ擴大スルノ國策ヲ遂行スルコト」ヲ關係方面ヘ通電セル趣ナルカ其ノ具体手段トシテ西南援助及反蔣運動ヲ鼓吹セントスルモノト察セラル(現ニ當方面ニハ某々機關關係者ト黄郛反對ノ支那要人等ト結託シテ北支獨立運動ニ從事シ居ル者アリ既ニ戰區内玉田ニ於ケル石友三部下ノ保安隊ニ三萬元ヲ提供セル支那要人アルヤノ聞込アリ尚冒頭電報ノ(四)「康德帝ヲ北平ニ移ス案ヲ提唱」シタルハ滿洲ヨリ參加セル某武官等ニシテ北支ヨリ參加セル武官ニハアラサルモ北支ニモ之ニ共鳴セル者アル由ナリ爲念)

之ニ關シ先般上海ニテ影佐及天津ニテ酒井ニ面會セル許卓然カ九日本官來訪ノ節頻リニ軍部ノ態度ヲ氣ニシ萬一北支ニ於テ出先軍隊カ事ヲ起スカ如キコトナキヤ又然ル場合ニハ滿洲事件ノ實例ニモ鑑ミ政府ハ之ヲ阻止スルコト困難ニアラスヤトノ懸念ヲ懷クモノモ鮮カラサル旨語レルニ付本官ハ左様ノ心配ハ無用ナルヘシト申聞ケ置ケリ

尚過日來平ノ參謀本部附今井少佐ヨリ仄聞スル所ニヨレハ上海武官會議及參謀本部内ニ於テ往電第四〇三號ノ(一)蔣介石ト本官トノ談話カ問題トナレル由ナルニ付本官ヨリ同少佐ニ對シ右ハ日本ニ軍部ノ稱スルカ如キ強硬論アル嚴然タル事實ヲ警告シテ蔣ノ反省ヲ促サントセル下心ニ外ナラスシテ右強硬論カ軍部ノ一部ニ限ラレ居ルトカ又ハ其ノ論ノ可否ニ付批評ヲ加ヘタル次第ニアラサルハ敢テ説明スル迄モナキ儀ナルノミナラス軍部ニ於テ斯ノ如キ強硬論ヲ堅持シ居ルコト夫レ自身ハ却テ我方ニ取リ威力アル背景トナルモ現場ニ於テ當面ノ局ニ當ル外交機關ヲ無視シテ軍部自ラ手ヲ下スカ如キコトハ深甚ノ考慮ヲ要スル旨述ヘ置キタリ右爲念申添フ

本電ハ絶對ニ部外ニ洩レサル様御配慮ヲ請フ

支、南京、天津ニ轉電セリ

(付　記)

(昭和九年十二月二十七日亞一調書)

支那問題ニ關スル軍部トノ協議ノ件

一、北支停戰協定後一個年ヲ經タル本年春頃ヨリ本邦内ニ於テ日支ノ關係ハ一向ニ良クナラストテ焦慮スル氣分現レ初メタル次第モアリ支那問題ニ關シ外務及陸海軍關係課長ノ間ニ意見ノ交換ヲ行フコトトナレリ

二、仍テ六月中旬外務及陸海軍關係課長會合協議ノ結果東亞局第一課長試案トシテ別紙甲號ヲ作成セリ

三、右試案ヲ基礎トシテ數回ニ亘リ協議ヲ行ヒタル結果七月二十七日ニ至リ別紙乙號ノ通關係課長限リ一應意見ノ一致ヲ見タルニ依リ各々上局ニ經伺ノ上之ヲ「外務及陸海軍係官カ各々上局監督ノ下ニ協議シ意見ノ一致ヲ見タル要領ヲ記述セルモノ」トシテ取扱フコトニ打合セタリ

四、然ルニ其ノ後ニ至リ陸軍側ニ異見出テタル趣ニテ本件打合ハ其ノ儘トナリ居タル處十一月下旬ニ至リ協議ヲ再會(開カ)スルコトトナリ數回會合ノ末別紙丙號ノ通意見ノ一致ヲ見目下外務及陸海軍側共夫々上局ニ伺出中ナリ

(別紙甲號)

對支政策ニ關スル件(九、六、二一試案)

第一、趣　意

一、我對支政策ハ(イ)支那ヲシテ帝國ヲ盟主トスル日滿支三國ノ提携共助ニ依リ東亞ニ於ケル平和ヲ確保セムトスル帝國ノ方針ニ追隨セシムルト共ニ(ロ)支那ニ對スル我商權ノ伸張ヲ期スルヲ以テ根本義トス。

二、然レ共支那ノ現狀ニ顧ミ同國政局ニ對スル施策ニ依リ急速ニ第一項(イ)ノ目的ヲ達成スルコト至難ナルニ止ラス我

方ニ於テ燥(躁カ)急ニ斯種ノ施策ヲ行ハムカ、爲ニ支那ノ事態ニ破壞的紛亂ヲ來シ帝國ハ其ノ地理的近接等ノ關係上之カ收捨(拾カ)ノ爲巨大ナル實力ヲ支那ノ内地ニ用フルノ餘義(儀カ)ナキ破目ニ陷ルノ虞アリ。然ルニ目下我方ハ帝國國策ノ中樞タル滿洲國ノ建設ニ主力ヲ傾注シツツアルト同時ニ一九三五、六年ノ國際的重大時期ヲ控ヘ居ルヲ以テ出來得ル限リ前記ノ如キ破目ニ陷ルコトナキ樣戒心スルノ要アリ。

三、一方支那ニ對スル我商權ノ伸張、換言スレハ我方カ支那ニ於テ强固ナル經濟上ノ地歩ヲ築クコトハ其レ自体我對支策ノ根本義ヲ成スノミナラス、他面我方ノ勢力ヲ以テ支那ヲ控制シ同國ヲシテ我方トノ接近ヲ求ムルノ餘儀ナキニ至ラシムヘキ有力ナル手段ナリ。(前記ノ如ク政治的ノ施策ニ依リ急速ナル效果ヲ期待シ難キ現狀ニ於テ特ニ然リ。)而シテ右商權伸張ノ爲ニハ支那各地殊ニ經濟上我方ト關係深キ地域ノ治安紊亂セサルコト肝要ナリ

四、仍テ我方トシテハ此ノ際支那政局ノ自然ノ推移ニ逆行スル無理ナル措置ヲ執リ爲ニ支那ノ事態ヲ破壞的紛亂ニ瀕セシムルノ危險ヲ避ケ、寧ロ右自然ノ推移ヲ我方ニ有利ニ誘導スル如ク處理スル氣持ノ下ニ、支那ノ實情ニ適シタル方策ヲ熱心且執拗ニ實施シ、以テ支那政局推移上、當然ノ歸結ト認メラルル同國内政ノ極端ナル行詰ト相俟チ、結局支那ヲシテ大勢ノ赴ク所遂ニ我方ニ接近ヲ求ムルノ餘儀ナキカ如キ境地ニ立タシムルヲ期セサルヘカラス。

第二、方策要綱

一、一般方策

(イ)支那側カ東亞ノ大局ニ覺醒セサル限リ我方ハ自ラ正シト信スル途ニ依ツテ進ムヘシトノ我方ノ決意ヲ支那官民ニ一層印象セシムル氣持ノ下ニ、支那側ヲシテ日支關係ノ打開ニ付現實ニ誠意ヲ示スニ於テハ其ノ中央政權タルト地方政權タルトヲ問ハス我方亦好意ヲ以テ之ヲ迎フヘキモ、我方ヨリ進ンテ和親ヲ求メス且支那側ニ於テ我方ノ權益ヲ侵害スル場合ニハ我方獨自ノ立場ニ基キ必要ノ措置ヲ執ルヘシトノ嚴蕭(肅カ)公正ナル態度ヲ以テ之ニ臨ムコト。

(ロ)前記ノ如ク權益擁護上必要ナル我方措置ノ結果、支那政局ニ動搖ヲ生スルコトアリトスルモ右ハ止ムヲ得サ

ル所ナルカ、然ラサル限リ我方ニ於テ殊更支那ノ事態ヲ紛亂セシムルカ如キ措置ニ出テサルコト。殊ニ支那各地、就中經濟上我方トノ關係深キ地域ノ治安ヲ增進セシメ以テ我商權ノ伸張ヲ期スルコト。

(ハ)日支接近ノ最大ノ障碍タル支那ノ遠交近攻心裡、卽チ同國カ外國ノ力ヲ藉リテ我方ヲ抑制セムコトヲ僥倖セムトスル心裡及右心裡ニ基ク各般ノ行動幷ニ之ニ策應スル外國側ノ對支援助ヲ極力排擊スルコト。但シ右排擊ノ爲ニハ專ラ外交上及經濟上ノ方策ヲ利用スルコト。

二、對南京政權方策

國民政府ノ指導原理ハ帝國ノ對支政策ト根本ニ於テ相容レサルモノアルヲ以テ、南京政權ニ對スル方策ノ基調ハ同政權ノ存亡ハ同政權ニ於テ日支關係ノ打開ニ誠意ヲ示スカ否カニ懸ルト云フカ如キ境地ニ窮局(極カ)ニ於テ同政權ヲ追込ムコトニ存スル次第ナルモ、少クトモ當分ノ間支那ノ事態ヲ出來得ル限リ紛亂セシメサルヲ可トスル我方ノ方針ニ基キ、此ノ際我方トシテハ進ンテ南京政權ノ倒壞ヲ計ルカ如キコトナク、寧ロ同政權ニ對シテ前記一般對策(イ)及(ハ)ノ施策ヲ執拗ニ行ヒ、殊ニ懸案ノ解決及我方權益ノ伸張ニ付テハ從來ヨリモ一層積極的ノ努力ヲナシ、以テ同政權ノ態度ヲ我方ニ有利ニ誘導スルヲ期スルコト。

三、對北支政權方策

我方トシテハ北支地方ニ對シ南京政權ノ政令ノ及ハサルカ如キ情勢ヲ希望スルモ、此ノ際急速ニ右ノ如キ情勢ヲ招來スルコトハ我方ニ於テ巨大ナル實力ヲ用フルノ決意ナキ限リ困難ナルニ付、差當リ北支地方ニ於テハ南京政權ノ糸ヲ引キツツ而モ同政權ノ政令カ北支ニ付テハ同地方ノ現實ノ事態ニ應シテ緩和セラルル情勢ヲ次第ニ濃厚ナラシムヘキコトヲ目標トシ、漸ヲ追フテ之カ實現ヲ期スルコト。從テ我方トシテハ少クトモ當分ノ間ハ黃郛政權ヲ存續セシムル方針ヲ腹中ニ藏シツツ、大体前記南京政權ニ對スル方針ヲ準用シテ之ニ臨ミ懸案ノ解決及我方權益ノ維持伸張ニ努ムルト共ニ、北支政權下ノ官職等ニシテ舊東北系等排日派ノ人物ニ依リ占メラレ居ルモノヲ親日的ノ人物ニ置替ヘシメ、且黨部ノ活動ヲ尠クトモ事實上封セシムル樣仕向ケ以テ北支地方ノ官民カ同地方ニ

於テハ排日ハ行ハヌモノナリトノ先入的ノ觀念ヲ持ツニ至ル樣ノ空氣ヲ釀成シ行キ、結局我勞(ママ)權益ノ伸張ト親日的官吏等ノ配置ト將又排日ニ眤(昵カ)マサル一般空氣ノ釀成トニ依リ北支政權ノ主班カ何人ナルモ北支ニ於ケル日滿支ノ特殊ノ關係ヲ無視スルコト不可能ナルカ如キ狀況ヲ招來スルニ努ムルコト。

四、其ノ他ノ局地的政權ニ對スル方策

西南派及韓復榘、閻錫山等ノ局地的政權カ南京政權ニ對シ不即不離ノ態度ヲ執リ居ル現狀ヲ維持セシムルコトハ南京政權ノ對日態度ヲ牽制スル上ニ於テ望マシキニ付、此等政權カ主トシテ其ノ自力ニ依リ存續スル樣仕向クルト共ニ我方トノ連絡ヲ適宜維持セシムルコト。但シ斯種局地的政權ノ發生ハ支那政局ノ自然ノ推移ニ委スヘク、我方ニ於テ積極的ニ右發生ヲ助成スルカ如キハ徒ニ事態ノ紛亂ヲ來ス虞アリテ前記一般方策(ロ)ノ趣旨ニ添ハサルヲ以テ、我方トシテハ南京政權擁護ニ偏スルカ如キ結果トナラサル樣留意シツツ而モ前記ノ如キ積極的助成ノ措置ハ之ヲ避クルコト。

五、商權伸張ニ關スル方策

前記各方策ノ實施間之ニ適應シテ我對支商權ノ伸張ニ努ムヘク殊ニ各政權ニ對スル方策ノ如何ヲ問ハス廣ク對象ヲ實業界其ノ他一般民間ニ求メ國民經濟提携ヲ促進シ、尙排日ニ眤(昵カ)マサル一般的空氣ノ釀成ヲ計リ、以テ日滿支間ノ經濟的特殊關係ハ政治的等ノ理由ニ依リ如何トモシ難キカ如キ事態ノ招來ヲ期スルコト。

（別紙乙號）

對支政策ニ關スル件（九、七、二七案）

第一、趣　意

一、我對支政策ハ(イ)支那ヲシテ帝國ヲ中心トスル日滿支三國ノ提携共助ニ依リ東亞ニ於ケル平和ヲ確保セムトスル帝國ノ方針ニ追隨セシムルト共ニ(ロ)支那ニ對スル我商權ノ伸張ヲ期スルヲ以テ根本義トス

二、然レ共支那ノ現狀ニ顧ミ同國政局ニ對スル施策ニ依リ急速ニ第一項(イ)ノ目的ヲ達成スルコト至難ナルニ止ラス我方ニ於テ過急ニ斯種ノ施策ヲ行フコトハ却テ反對ノ結果ヲ招來スルノ虞モアリ漸ヲ追フテ右目的ノ達成ヲ期スルヲ要ス

三、一方支那ニ對スル我商權ノ伸張、換言スレハ我方カ支那ニ於テ强固ナル經濟上ノ地歩ヲ築クコトハ其レ自体我對支策ノ根本義ヲ成スノミナラス、他面我方ノ勢力ヲ以テ支那ヲ控制シ同國ヲシテ我方トノ接近ヲ求ムルノ餘儀ナキニ至ラシムヘキ有力ナル手段ナリ。而シテ右商權伸張ノ爲ニハ支那各地殊ニ經濟上我方ト關係深キ地方ニ於ケル治安ノ維持ヲ念トシ一般官民ノ間ニ對日依存ノ空氣ヲ釀成セシムルト共ニ排日ヲ終熄セシムル樣仕向クルコト肝要ナリ

四、仍テ我方トシテハ此ノ際支那政局ノ自然ノ推移ニ逆行スル無理ナル措置ヲ避ケ、寧ロ右自然ノ推移ヲ我方ニ有利ニ誘導スル如ク處理スル氣持ノ下ニ支那ノ實情ニ應シ我方ノ必要ト認ムル方策ヲ熱心且執拗ニ實施シ、以テ支那政局推移上當然ノ歸結ト認メラルル同國內政ノ極端ナル行詰ト相俟チ、結局支那ヲシテ大勢ノ赴ク所遂ニ我方ニ接近ヲ求ムルノ餘儀ナキカ如キ境地ニ立タシムルヲ期セサルヘカラス

第二、方策要綱

一、一般方策

(イ)支那側カ東亞ノ大局ニ覺醒セサル限リ我方ハ自ラ正シト信スル途ニ依ツテ進ムヘシトノ我方ノ決意ヲ支那官民ニ一層印象セシムル氣持ノ下ニ、支那側カ日支關係ノ打開ニ付現實ニ誠意ヲ示スニ於テハ我方亦好意ヲ以テ之ヲ迎フヘキモ、我方ヨリ進ンテ和親ヲ求メス、且支那側ニ於テ我方ノ權益ヲ侵害スル場合ニハ我方獨自ノ立場ニ基キ必要ノ措置ヲ執ルヘシトノ嚴肅公正ナル態度ヲ以テ之ニ臨ムコト

(ロ)前記ノ如ク權益擁護上必要ナル我方措置ノ結果支那政局ニ動搖ヲ生スルコトアリトスルモ右ハ止ムヲ得サル所ナルカ、然ラサル限リ我方ニ於テ殊更支那ノ事態ヲ紛亂セシムルカ如キ措置ニ出テサルコト。又支那各地、就中經濟上我方トノ關係深キ地方ニ於ケル治安ノ維持ヲ念トシ一般官民ノ間ニ對日依存ノ空氣ヲ釀成セシムルト共ニ排日ヲ終熄セシムル樣仕向ケ我商權ノ伸張ヲ期スルコト

(ハ)日支接近ノ最大ノ障碍タル支那ノ遠交近攻的心裡、卽チ同國カ外國ノ力ヲ藉リテ我方ヲ抑制セムコトヲ僥倖セムトスル心裡及右心裡ニ基ク各般ノ行動幷ニ之ニ策

應スル外國側ノ對支援助ヲ極力排撃スルコト。但シ右排撃ノ爲ニハ主トシテ外交上及經濟上ノ方策ヲ利用スルコト

二、對南京政權方策

國民政府ノ指導原理ハ帝國ノ對支政策ト根本ニ於テ相容レサルモノアルヲ以テ南京政權ニ對スル方策ノ基調ハ同政權ノ存亡ハ同政權ニ於テ日支關係ノ打開ニ誠意ヲ示スカ否カニ懸ルト云フカ如キ境地ニ窮局(極力)ニ於テ同政權ヲ追込ムコトニ存スル次第ナルモ、此ノ際我方トシテハ進ンテ南京政權ノ倒壞ヲ計ル爲一般情勢ニ逆行スルカ如キ特殊ノ施策ヲ避ケ、寧ロ前記一般對策(イ)及(ハ)ノ施策ヲ執拗ニ行ヒ殊ニ同政權ニ對シテ排日ノ停止就中黨部ノ策動ヲ抑制セムコトヲ要求シ同時ニ懸案ノ解決及我方權益ノ伸張ニ付テハ從來ヨリモ一層積極的ノ努力ヲナシ、且同政權下ノ官職等ニ親日的ノ人物ヲ任命セシムル樣仕向ケ以テ同政權ノ態度ヲ我方ニ有利ニ誘導スルヲ期スルコト。

三、對北支政權方策

我方トシテハ北支地方ニ對シ南京政權ノ政令ノ及ハサルカ如キ情勢トナラムコトヲ希望スルモ此ノ際急速ニ右ノ如キ情勢ヲ招來スルコトハ我方ニ於テ巨大ナル實力ヲ用フルノ決意ナキ限リ困難ナルニ付、差當リ北支地方ニ於テハ現狀ヲ維持シツツ南京政權ノ政令カ北支ニ付テハ同地方ノ現實ノ事態ニ應シテ去勢セラルル情勢ヲ次第ニ濃厚ナラシムヘキコトヲ目標トシ漸ヲ追フテ之カ實現ヲ期スルコト。從テ我方トシテ北支政權ニ對シテモ大体前記南京側ニ對スル方針ヲ準用シ且該政權カ有力ナルモノニシテ誠意ヲ示スニ於テハ give and take ノ趣意ヲ相當加味シテ之ニ臨ミ以テ懸案ノ解決及我方權益ノ維持伸張ニ努ムルト共ニ、黨部ノ活動ヲ尠クトモ事實上封セシメ且北支政權下ノ官職等ニシテ舊東北系排日派ノ人物ニ依リ占メラレ居ルモノヲ親日的ノ人物ニ置キ替ヘシムル樣仕向ケ以テ北支地方ノ官民カ同地方ニ於テハ排日ハ行ハヌモノナリトノ先入的ノ觀念ヲ持ツニ至ル樣ノ空氣ヲ釀成シ行キ、結局我方權益ノ伸張ト排日ニ昵マサル一般空氣ノ釀成トニ依リ、北支政權ノ主班カ何人ナルモ北支ニ於ケル日滿支ノ特殊ノ關係ヲ無視スルコト不可能ナルカ如キ狀況ヲ招來スルニ努ムルコト

四、西南派其ノ他ノ局地的政權ニ對スル方策

西南派其ノ他ノ局地的政權ニ對シテモ前記一般對策幷之ニ基ク對南京及北支政權方策ヲ準用スヘキコト勿論ナルカ西南派及韓復榘、閻錫山等カ南京政權ニ對シ不即不離ノ態度ヲ執リ居ル現狀ヲ維持セシムルコトハ南京政權ノ對日態度ヲ牽制スル上ニ於テ望マシキニ付、我方トシテハ此等政權カ主トシテ其ノ自力ニ依リ存續スル樣仕向クルト共ニ先方カ我方ニ對シ好意ヲ示スニ於テハ我方亦之ニ相應スル好意ヲ示シ適宜連絡ヲ維持スルコト。但シ斯種地方政權ノ新ナル發生ハ支那政局ノ自然ノ推移ニ委スヘク我方トシテハ南京政權擁護ニ偏スルカ如キ結果トナラサル樣留意スルト共ニ積極的ニ新ニ地方政權ノ發生ヲ助成スルカ如キ措置ハ之ヲ避クルコト

五、商權伸張ニ關スル方策

前記各方策ノ實施間之ニ適應シテ我對支商權ノ伸張ニ努ムヘク殊ニ各政權ニ對スル方策ノ如何ヲ問ハス廣ク對象ヲ實業界其ノ他一般民間ニ求メ國民經濟提携ヲ促進シ、尚排日ニ昵マサル一般的空氣ノ釀成ヲ計リ、以テ日滿支間ノ經濟的特殊關係ハ政治的等ノ理由ニ依リ如何トモシ難キカ如キ事態ノ招來ヲ期スルコト

(別紙丙號)

對支政策ニ關スル件

第一、趣　意

一、我對支政策ハ(イ)支那ヲシテ帝國ヲ中心トスル日滿支三國ノ提携共助ニ依リ東亞ニ於ケル平和ヲ確保セムトスル帝國ノ方針ニ追隨セシムルト共ニ(ロ)支那ニ對スル我商權ノ伸張ヲ期スルヲ以テ根本義トス

二、然レ共支那ノ現狀ニ顧ミ同國政局ニ對スル施策ニ依リ急速ニ第一項(イ)ノ目的ヲ達成スルコト至難ナルニ止ラス我方ニ於テ過急ニ斯種ノ施策ヲ行フコトハ却テ反對ノ結果ヲ招來スルノ虞モアリ漸ヲ追テ右目的ノ達成ヲ期スルヲ要ス

三、一方支那ニ對スル我商權ノ伸張、換言スレハ我方カ支那ニ於テ强固ナル經濟上ノ地歩ヲ築クコトハ其レ自體我對支政策ノ根本義ヲ成スノミナラス、他面我方ノ勢力ヲ以テ支那ヲ控制シ同國ヲシテ我方トノ接近ヲ求ムルノ餘儀ナキニ至ラシムヘキ有力ナル手段ナリ

而シテ右商權伸張ノ爲ニハ中央及各地政權ノ排日的態度ヲ嚴ニ是正スルト共ニ支那各地就中經濟上我方トノ關係深キ地方ニ於ケル治安維持ニ留意シ一般官民トノ間ニ對

日依存ノ空氣ヲ釀成セシムルコト肝要ナリ

四、仍テ我方トシテハ此ノ際支那政局ノ自然ノ推移ニ逆行スル無理ナル措置ヲ避ケ寧ロ右自然ノ推移ヲ我方ニ有利ニ誘導スル如ク支那ノ實情ニ應シ我方ノ必要ト認ムル方策ヲ熱心且執拗ニ實施シ、以テ支那政局推移上當然ノ歸結ト認メラルル同國內政ノ極端ナル行詰ト相俟チ、結局支那ヲシテ大勢ノ赴ク所遂ニ我方ニ接近ヲ求ムルノ餘儀ナキカ如キ境地ニ立タシムルヲ期セサルヘカラス

第二、方策要綱

一、一般方策

(イ)支那側カ東亞ノ大局ニ覺醒セス依然東亞ノ平和ヲ破壞スヘキ政策ヲ繼續スルニ於テハ飽ク迄之カ是正ヲ要求シテ已マサル堅キ我方ノ決意ヲ支那官民ニ一層印象セシメ、支那側カ日支關係ノ打開ニ付現實ニ誠意ヲ示スニ於テハ我方亦好意ヲ以テ之ヲ迎フヘキモ、我方ヨリ進ンテ和親ヲ求メス、且支那側ニ於テ我方ノ權益ヲ侵害スル場合ニハ我方獨自ノ立場ニ基キ必要ノ措置ヲ執ルヘシトノ嚴肅公正ナル態度ヲ以テ之ニ臨ムコト

尙彼等ノ內部抗爭ヲ利用シ其ノ抗日政策ヲ更改セシムルコトニモ亦留意スルノ要アリ

(ロ)前記ノ如ク權益擁護上必要ナル我方措置ノ結果支那政局ニ動搖ヲ生スルコトアリトスルモ右ハ止ムヲ得サル所ナルカ然ラサル限リ我方ニ於テ殊更支那ノ事態ヲ紛亂セシムルカ如キ措置ニ出テサルコト。又支那各地、就中經濟上我方トノ關係深キ地方ニ於ケル治安ノ維持ニ留意シ一般官民ノ間ニ對日依存ノ空氣ヲ釀成セシムルト共ニ排日策動ニ對シテハ之ヲ阻止終熄セシムル樣嚴ニ要求シ以テ我商權ノ伸張ヲ期スルコト

(ハ)日支接近ノ最大ノ障碍タル支那ノ遠交近攻的心理、即チ同國カ外國ノ力ヲ藉リテ我方ヲ抑制セムコトヲ僥倖セムトスル心理及右心理ニ基ク各般ノ行動並ニ之ニ策應スル外國側ノ對支援助ヲ極力排擊スルコト。是カ爲ニハ主トシテ外交上及經濟上ノ方策ヲ積極的ニ實施スルコト

二、對南京政權方策

國民政府ノ指導原理ハ帝國ノ對支政策ト根本ニ於テ相容レサルモノアルヲ以テ南京政權ニ對スル方策ノ基調ハ同政權ノ存亡ハ同政權ニ於テ日支關係ノ打開ニ誠意ヲ示スカ否カニ懸ルト云フカ如キ境地ニ窮局(極カ)ニ於テ同政權ヲ追

込ムコトニ存スル次第ニシテ右目的ノ爲ニハ前記一般方策(イ)及(ハ)ノ施策ヲ執拗ニ行ヒ殊ニ同政權ニ對シテ排日ノ停止就中黨部ノ策動ヲ控制セムコトヲ要求シ同時ニ懸案ノ解決及我方權益ノ伸張ニ付テハ從來ヨリモ一層積極的ノ努力ヲナシ且同政權下ノ官職等ニ我政策遂行ニ便ナル人物ヲ任命セシムル樣仕向ケ以テ同政權ノ態度ヲ我方ニ有利ニ誘導スルヲ期スルコト

三、對北支政權方策

我方トシテハ北支地方ニ對シ南京政權ノ政令ノ及ハサルカ如キ情勢トナラムコトヲ希望スルモ此ノ際急速ニ右ノ如キ情勢ヲ招來スルコトハ我方ニ於テ巨大ナル實力ヲ用フルノ決意ナキ限リ困難ナルニ付、差當リ北支地方ニ於テハ南京政權ノ政令カ北支ニ付テハ同地方ノ現實ノ事態ニ應シテ去勢セラルル情勢ヲ次第ニ濃厚ナラシムヘキコトヲ目標トシ漸ヲ追フテ之カ實現ヲ期スルコト。從テ我方トシテハ北支政權ニ對シテモ大體前記南京側ニ對スル方針ヲ準用シ且該政權カ有力ナルモノニシテ誠意ヲ示スニ於テハ我方亦好意ヲ以テ之ニ臨ミ以テ懸案ノ解決及我方權益ノ維持伸張ニ努ムルト共ニ尠クトモ黨部ノ活動ヲ事實上封セシメ且北支政權下ノ官職等ヲシテ我政策遂行上ニ便ナル人物ニ置キ替ヘシムル樣仕向ケ以テ北支地方ノ官民カ同地方ニ於テハ排日ハ行ハヌモノナリトノ先入的ノ觀念ヲ持ツニ至ル樣ノ空氣ヲ釀成シ行キ、結局我方權益ノ伸張ト排日ニ眤(昵カ)マサル一般空氣ノ釀成トニ依リ、北支政權ノ主班カ何人ナルモ北支ニ於ケル日滿支ノ特殊ノ關係ヲ無視スルコト不可能ナルカ如キ狀況ヲ招來スルニ努ムルコト

四、西南派其ノ他ノ局地的政權ニ對スル方策

西南派其ノ他ノ局地的政權ニ對シテモ前記一般方策並之ニ基ク對南京及北支政權方策ヲ準用スヘキコト勿論ナルカ西南派及韓復榘、閻錫山等カ南京政權ト對立シ又ハ不卽不離ノ態度ヲ執リ居ル狀態ヲ維持セシムルコトハ南京政權ノ對日態度ヲ牽制スル上ニ於テ望マシキニ付、我方トシテハ此等政權カ我方ニ對シ好意ヲ示スニ於テハ我方亦之ニ相應スル好意ヲ示シ適宜連絡ヲ維持スルコト

但シ斯種地方政權ノ新ナル發生ハ支那政局ノ自然ノ推移ニ委スヘク我方トシテハ南京政權擁護ニ偏スルカ如キ結果トナラサル樣留意スルト共ニ積極的ニ新ニ地方政權ノ

發生ヲ助成スルカ如キ措置ハ之ヲ避クルコト

五、商權伸張ニ關スル方策

前記各方策ノ實施間之ニ適應シテ我對支商權ノ伸張ニ努ム之カ爲各政權ヲ利導シテ其ノ目的達成ヲ計ルト共ニ廣ク對象ヲ實業界其ノ他一般民間ニ求メ國民經濟提携ヲ促進シ、尚排日ニ昵マサル一般的空氣ノ醸成ヲ計リ、以テ日滿支間ノ經濟的特殊關係ハ政治的等ノ理由ニ依リ如何トモシ難キカ如キ事態ノ招來ヲ期スルコト

編　注　別紙丙号の文書は、十二月七日、三省主管当局間に意見の一致を見た。

29　昭和9年12月24日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛(電報)

蔣介石・汪兆銘の政治的立場の困難なる状況への理解および日中双方の猜疑打開方張群湖北省主席要望について

上　海　12月24日後発
本　省　12月24日後着

第九五三號

最近來寧シ汪等[汪カ]ト往復セル張群ハ楊永泰ト共ニ當地ニ滯在中ニシテ二十三日本使ヲ來訪長時間會談シタルカ參考トナルヘキ點左ノ通

一、先ツ張ヨリ自分ハ地方ニ居リ中央ノコトハ知ラサルカ支那側一般ノ空氣ヨリ見タル自分ノ考ヲ忌憚ナク御話シ度シト前置シ

過去數年ニ亘リ南京政府トシテハ通車通郵其ノ他ノ諸問題ニ付色々ノ困難ヲ排シ日本側ノ言分ヲ聽キ出來得ル限リ兩國關係ノ調節ヲ計ラント努力シ來リ居ルニ拘ラス日本側ニテハ未タニ蔣介石汪精衛等ノ誠意ヲ疑ヒ南京政府トハ合作スヘカラストノ態度ヲ執ラレ居ル模樣ニテ之カ爲支那側トシテハ一般ニ日本ノ眞意ヲ捕捉シ難ク多大ノ不安ヲ感シ居リ其ノ結果兩國關係ハ双方共猜疑ニ滿チ充分改善ノ實ヲ擧ケ得サル現狀ニアリ此ノ儘ニテハ又々如何ナル事態ヲ惹起センヤモ計リ難キ危險アリ自分ハ何トカ打開ノ途ナキヤト私カニ苦心シ居ル次第ナルカ貴公使ニ於テ何等カ妙案ニテモナキヤト述ヘタルヲ以テ本使[2]ヨリ右ノ如キ心配ハ一應尤ナルカ今春本使歸國ノ節各方面ノ人士ト話合ヒタル結果日本朝野ノ有力者ハ何レモ兩國ノ親善ヲ衷心ヨリ希望シ居ルコトヲ確メ之カ爲自分モ現ニ責任ヲ執リ微力ヲ盡シ居ル次第ニシテ日本トシテハ事變前ニハ何事ニモアレ迄隱忍ヲ重ネタルカ遂ニ堪ヘ切レス事變ノ勃發ヲ見タルコト御承知ノ通ナルカ自分トシテハ一度兵ヲ動カシタ以上感情問題モアリ之ヲ鎭靜シ進ンテ親善ノ實ヲ擧クルコトハ仲々早急ニハ行カス一歩一歩進ムヨリ外ナキコトヲ充分承知シ居レハ兩國ノ前途ハ必スシモ左程悲觀ノ要ナシト考ヘ居ル次第ナリト答ヘタルニ

二、張ハ右ノ御意見ヲ承リ多少安心セルカ貴國側ニテハ一般ニ蔣介石ハ何事モ意ノ儘ニ行ヒ得ルモノト考ヘ蔣汪ニ誠意ナシト非難シ(往電第九三四號及武官聲明等ヲ例證セリ)一部ニテハ反蔣派援助又ハ北方政權ノ樹立等ノ計畫アル模樣ナルカ御承知ノ通リ蔣汪ハ頗ル複雜ナル內政ノ關係上外交上ハ素ヨリ內政上ニ於テモ何事モ意ノ儘ニ行カス今日急ニ親日政策ヲ標榜セハ直ニ沒落スルノ運命ニ在ル[3]狀態ナレハ左程性急ニ之ヲ改ムルハ難キヲ强フルモノナリト述ヘタルニ付本使ヨリ蔣汪カ或程度迄右樣ノ立場ニ在ルコトハ本使ニ於テモ良ク了解シ居リ又一部ノ策動ニ付テハ貴國側ニモ過半ノ責任アルノミナラス(北方不平政客乃至西南派ノ策動宣傳ヲ說明ス)右ハ前述ノ如ク日本ノ政策ノ現ハレニ非サレハ深ク氣ニスルニモ當ラス要ハ兩國國交改善ノ爲ニハ南京政府ニ於テ誠意ヲ以テ日本ノ立場ヲ了解シ之ト合作スルコトニ一歩々々進ミ行クコトニアリ我方ニ於テモ之ニ應シテ合作ノ歩ヲ進ムルノ用意アリト述ヘタリ(尙其ノ節張ハ兩國間ニ差當リ何等カノ重大問題アリヤト尋ネタルニ付水先問題岸本問題等ヲ指摘シ之カ圓滿ナル解決ヲ望ム旨ヲ答ヘ置ケリ)

三、尙張ハ數日中ニ北方ニ出發黃郛ニ會見スヘキカトテ黃ノ苦境ヲ說明シ自分ハ黃ノ一身上ヨリ寧ロ其ノ辭職ヲ勸メル考ナリト述ヘ居タルニ付本使ヨリ右ハ黃ノ一身上ヨリ云ヘハ或ハ已ムヲ得サルヘキモ兩國關係ヨリ云ヘハ此ノ際黃ニ於テ更ニ一層ノ勇氣ヲ出シテ責任ヲ執ランコトヲ望ム旨ヲ述ヘ置キタリ

北平、南京、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州ヘ轉電セリ

上海ヘ轉報セリ